

3

運転するとき

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ	3-2
ライティングスイッチ	3-4
オートヘッドランプレベラー (自動光軸調整機構)	3-6
光軸調整ダイヤル	3-7
方向指示レバー	3-8
フォグランプスイッチ	3-9
ワイパー&ウォッシュャースイッチ	3-10
ヘッドランプウォッシュャー	3-13
フロントワイパーデアイサースイッチ	3-14
リヤウインドウデフォグガー (曇り取り) スイッチ	3-15
ハザードランプ (非常点滅灯) スイッチ	3-16
パーキングランプ (駐車灯) スイッチ	3-16
ホーンスイッチ	3-17
イルミネーションコントロールダイヤル	3-17
ブライト (減光キャンセル) 機能	3-18

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター	3-19
マルチインフォメーションディスプレイ	3-24
警告画面表示	3-34
表示灯	3-37
警告灯	3-41

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた	3-48
駐車ブレーキレバー	3-50

マニュアル車の運転

チェンジレバー	3-51
SI-DRIVE (SUBARU Intelligent Drive)	3-53

オートマチック車の運転

セレクトレバー	3-55
運転手順	3-59
スポーツモード	3-63
スポーツシフト	3-64
Info-ECOモードスイッチ	3-67
SI-DRIVE (SUBARU Intelligent Drive)	3-68

AWD車の運転

運転するとき	3-70
ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD	3-71
VTD-AWD	3-71
アクティブトルクスプリットAWD	3-71

クルーズコントロール 3-73

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム: ABS	3-78
ブレーキブースター (制動力倍力装置)	3-81
ブレーキアシスト	3-81

VDC

ビークルダイナミクスコントロールシステム	3-82
----------------------	------

リヤビューカメラ 3-87

サスペンション

セルフレベリングサスペンション	3-93
-----------------	------

リミテッドスリップディファレンシャル

リヤリミテッドスリップディファレンシャル (LSD)	3-94
----------------------------	------

ハンドル

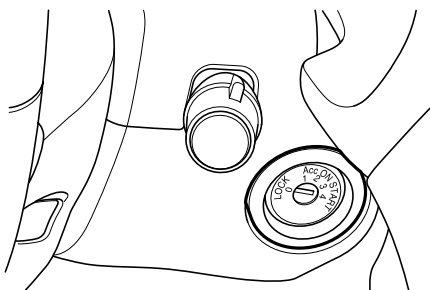
パワーステアリング	3-95
-----------	------

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

☆キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、2-13ページをご覧ください。

■各位置の働き



300078

LOCK (ロック) 0	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます
1	電源が切れる位置 マニュアル車はキーを押し込む位置 オートマチック車は、セレクトレバーがPにあるときは、この位置は使えません
Acc (アクセサリ) 2	エンジン停止時、次のものが使用できる位置 ワイパー、ウォッシャー、オーディオ、電源ソケット
ON (オン) 3	エンジン回転中の位置 全ての電装品に作動電源が供給されます
START (スタート) 4	エンジンを始動する位置

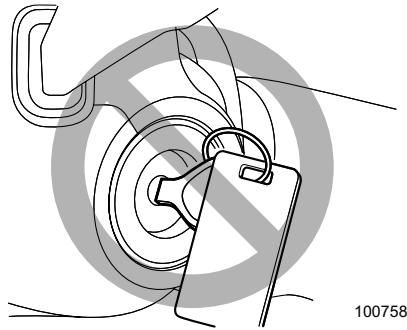
警告

走行中LOCKにしないでください。キーが抜けるとハンドルが固定され、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

注意

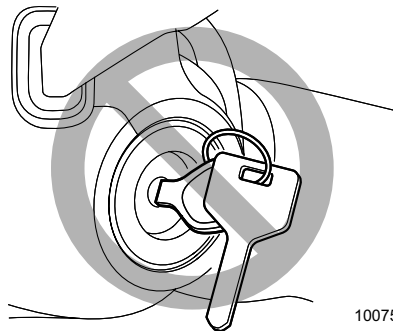
- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。
大型のキーホルダーはキーに付けしないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けしないでください。また、重いものをキーに付けしないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリがかさなっているとき



100758

キーグリップに他のキーがかさなっているとき



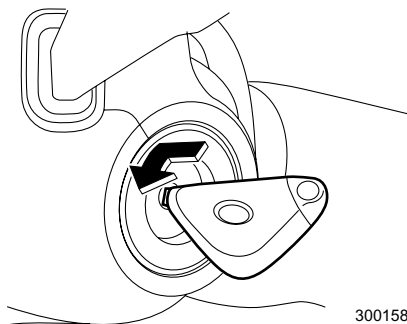
100759

アドバイス

- エンジンを止めているときスイッチをLOCKにしてください。長時間ONにしたり、Accにして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーがLOCKからAccに回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■キーを抜くとき

オートマチック車は、セレクトレバーを **P** にしてキーをLOCKに回してください。
マニュアル車は、「1」（キーを手前に回すと動かなくなる位置、エンジンスイッチに1と刻印）でキーを押し込んでからLOCKに回してください。



300158

■キー抜き忘れ警報

キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。



アドバイス

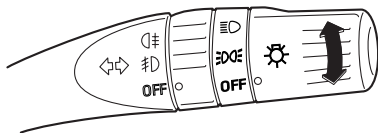
車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■エンジンキー照明（イグニッションキー照明）

エンジンスイッチの周辺が点灯します。
運転席のドアを開けたとき点灯し、閉めた後も20秒間点灯し、その後徐々に消灯していきます。


ライティングスイッチ

ハンドルの右側のレバーがライティングスイッチです。
エンジンスイッチがONのときスイッチを回すと次のようにランプが点灯します。



300159

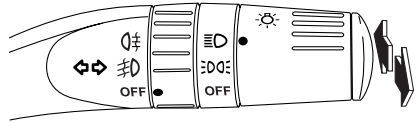
スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯
OFF		消灯
☞☞	消灯	点灯
☞		点灯

 **アドバイス**

エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。バッテリー上がりを起こします。

■ **ヘッドランプの上下を切り替えるとき**

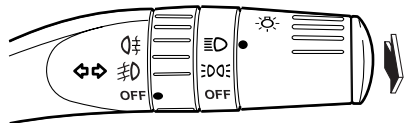
ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押しと上向きになります。元に戻すと下向きになります。



300160

■ **合図のしかた (パッシング)**

レバーを手前に引いている間、ヘッドランプ上向き、下向きが同時に点灯します。ライティングスイッチがOFFでも使えます。



300161

運転するとき

オートヘッドランプレベラー(自動光軸調整機構)※

下向きヘッドランプにHID(高輝度放電式ランプ)が装着されている車には、自動光軸調整機構がついています。

ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者および積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。

警告

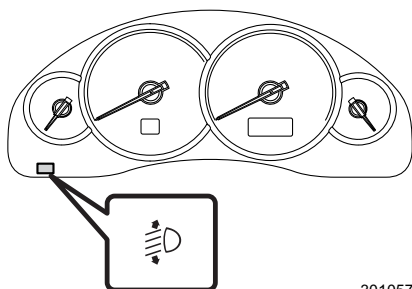
HIDバルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。バルブの脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

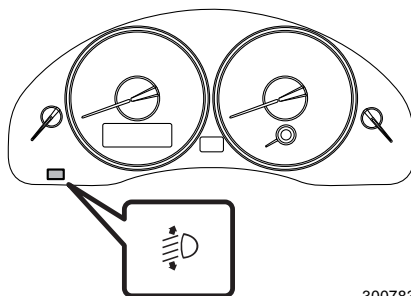
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー(自動光軸調整機構)の電子制御システムに異常があると点灯します。

タイプAメーター



301057

タイプBメーター



300783

注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

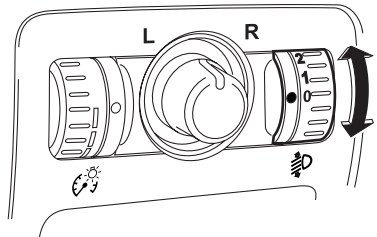
- HIDバルブは、点灯、消灯を繰り返すとバルブの寿命が短くなる特性があります。信号待ちなど短時間の場合は、点灯したままの方がバルブが長持ちします。
- バルブが切れかかると、一般の蛍光灯と同じように、著しく明るさが低下したり、点滅したり、赤味を帯びた色になることがあります。そのような現象が現れるときは、スバル販売店にご相談ください。
- HIDランプは点灯するとき、安定するまでに若干明るさや色が変わることがあります。
- HIDランプは、発熱量が少ないため雪道走行の際、レンズ面に積もった雪が溶けにくい特性があります。雪を落として走行してください。

光軸調整ダイヤル

下向きヘッドランプにハロゲンランプが装着されている車には、光軸調整ダイヤルがついています。ヘッドランプの下向き点灯時に使います。

エンジンスイッチがONのとき使用できます。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようになると、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプが照らす向きは下側になります。
- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にダイヤル位置を調整してください。



300162

セダン

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	無
2	2名	3名	有※
3	1名	0名	有※
4	—	—	—
5	—	—	—

ワゴン

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	無
2	—	—	—
3	2名	3名	有※
4	1名	0名	有※
5	—	—	—

※荷室満載にした場合



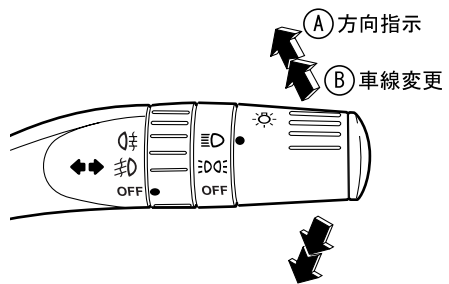
アドバイス

- ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車に迷惑となります。対向車のフロントガラスや前を走る車のミラーを照らしているときは、光軸調整ダイヤルを操作してヘッドランプを下向きに調整してください。
- ハロゲンヘッドランプの光軸調整をするときは、光軸調整ダイヤルを「0」の位置にしてから行ってください。

方向指示レバー

ハンドル右側のレバーを使います。
エンジンスイッチがON のとき、レバーを
Ⓐの位置まで動かすと方向指示器とメーター
内の表示灯が点滅します。
右折あるいは左折後、ハンドルを戻すと自動
的に戻りますが、戻らないときは手で戻して
ください。

☆3-37ページ参照



300163



アドバイス

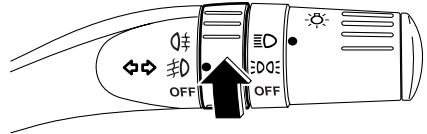
車線変更の合図をするには
レバーを変更しようとする方向に軽く押さえていると方向指示器とメーター
内の表示灯が点滅します。(Ⓑ位置)
手を離すと元の位置に戻ります。

フォグランプスイッチ

■フロントフォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONでライティングスイッチが☉Dまたは☉Dのとき、スイッチを1段階回すとフロントフォグランプが点灯します。

フロントフォグランプ点灯中はメーター内のフロントフォグランプ表示灯が点灯します。



300164

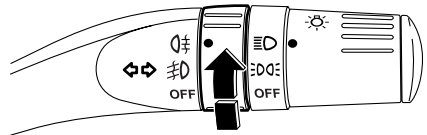
■リヤフォグランプスイッチ

エンジンスイッチがONでフロントフォグランプが点灯しているとき、さらにスイッチを回すとリヤフォグランプが点灯します。

リヤフォグランプ点灯中はメーター内のリヤフォグランプ表示灯が点灯します。

手を離すとスイッチは自動的にフロントフォグランプ点灯位置に戻ります。

リヤフォグランプを消灯させる場合は、もう一度スイッチを回してください。



300165

アドバイス


- リヤフォグランプの消し忘れ防止のため、以下の操作を行うとリヤフォグランプがOFFになります。
 - － エンジンスイッチOFF
 - － ライティングスイッチOFF
 - － フォグランプスイッチOFF
- 再度リヤフォグランプを点灯させるには、フォグランプスイッチを回してください。
- フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計していますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。
- リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。

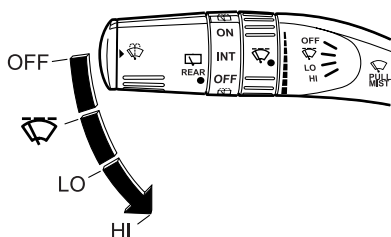
ワイパー&ウォッシャースイッチ

ハンドルの左側のレバーがワイパー&ウォッシャースイッチです。
エンジンスイッチがAccまたはONのときに使用できます。

■フロントワイパーの作動

レバーを押し下げるとワイパーが作動します。

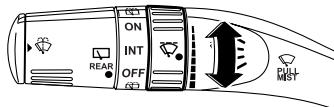
OFF	停止
	間欠作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動



300720

●間欠作動の時間調整

レバーを1段押し下げます。
リングを回し間欠作動の間隔を調整します。
作動の間隔は9段階に調整できます。
リングを上に戻すと作動間隔が短くなり、下
に戻すと長くなります。



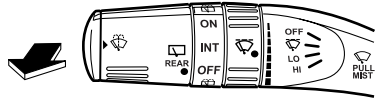
300721

アドバイス

車速感应式間欠ワイパーが装備されています。停車中は、間欠作動の間隔が走行中に比べ長くなります。

●ワイパーを手動で使いたいときには (MIST)

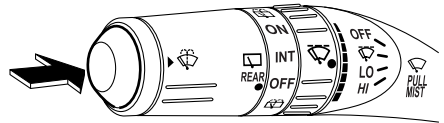
レバーを手前に引いている間、ワイパーが動きます。手を離すと停止します。



300722

●フロントウォッシャー

スイッチを押している間、ウォッシャー液が噴射します。



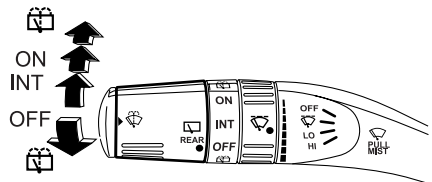
300723

 **アドバイス**

スイッチを押すとワイパーが1~2回動きます。

■リヤワイパー/ウォッシャーの作動 

スイッチを回すと作動します。





300724

次ページへ ⇒

運転するに
よ


⇒前ページより

 (上側)	ウォッシャー液が噴射します。手を離すとONに戻ります。
ON	連続で作動
INT	間欠（車速に応じて変わります）
OFF	停止
 (下側)	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。手を離すとOFFに戻ります。

アドバイス

- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ガラスに拭き残しができるときにはワイパーブレードのラバーを交換してください。


☆6-20ページ参照

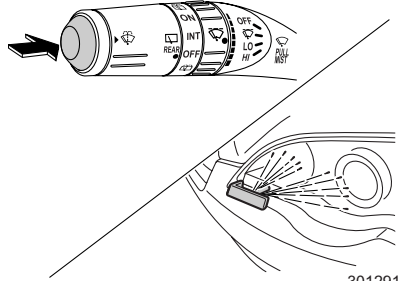
- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防止します。
- ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。
 - ー フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを (デフロスター) にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
 - ー リヤガラスは、リヤウインドゥデフォグラーを使用してください。

☆3-14、3-15、4-12ページ参照

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチをAccまたはLOCKにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。
- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きいか状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まる場合があります。その場合には、車を安全な場所に止めて、一度ワイパースイッチをOFFにしてください。10分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- フロントウォッシャーノズルの噴出範囲の調整はスバル販売店にご相談ください。
- ゴミがつまるなど、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

ヘッドランプウォッシャー ❧

ヘッドランプが汚れたときに使用します。
 エンジンスイッチがONでライティングスイッチがのとき、フロントウォッシャーのスイッチを1秒以上押し続けると、フロントウォッシャーと連動して作動します。ヘッドランプウォッシャーは約1秒間作動し、停止します。



301291

アドバイス

- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ゴミがつまるなど、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

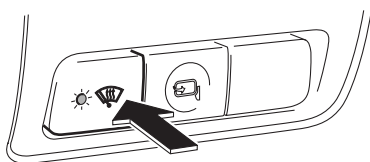
運転するとき

フロントワイパーデアイサースイッチ

フロントワイパーデアイサーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。フロントワイパーがガラスに凍結（ワイパー停止位置）しているとき、ガラスを暖めてワイパーが作動できるようにします。

電熱線はフロントガラスの下部にプリントしてあります。

- スイッチを押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、フロントガラスの下側が暖められます。約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めたいときは、もう一度押します。（表示灯が消灯します）
- 納車時は約15分で自動的にOFFになるよう設定されています。お客様のご要望に応じて連続作動に設定変更することもできます。



300174

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車：

画面上の操作により連続作動に設定変更することができます。

詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車以外：

スバル販売店で設定を変更することができます。最寄りのスバル販売店にお問い合わせください。

アドバイス

- ワイパーデアイサーは消費電力が大きいので必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 物が電熱線に当たらないように気をつけてください。
- 連続作動に設定していても、下記条件のときには、15分後に停止します。
 - ー 外気温度が5℃以上のとき
 - ー Info-ECOモードがONのとき
 - ー バッテリー電圧が低下したとき
- 連続作動に設定していても、車速15 km/h以下が15分間続いたときには、自動的にOFFになります。

リヤウインドウデフォグガー (曇り取り) スイッチ

リヤウインドウデフォグガーは、エンジンスイッチがONのとき使用できます。スイッチはエアコンの操作パネルの中にあります。リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。(表示灯が消灯します)
- 納車時は約15分で自動的にOFFになるよう設定されています。お客様のご要望に応じて連続作動に設定変更することもできます。(オートエアコン付車のみ)

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車：

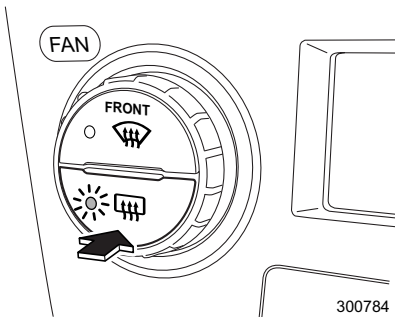
モニターの操作により連続作動に設定変更することができます。

詳しくはナビゲーション取扱説明書をご覧ください。

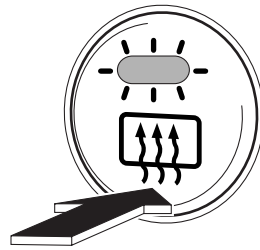
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車以外：

スバル販売店で設定を変更することができます。最寄りのスバル販売店にお問い合わせください。

オートエアコン付車



マニュアルエアコン付車



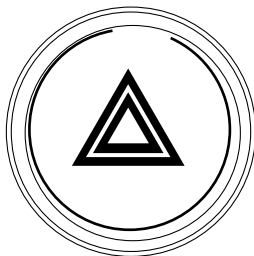
アドバイス

- 消費電力が大きいので長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の清掃時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。
- ヒーテッドドアミラー装着車は、リヤウインドウデフォグガースイッチを押すと、ヒーテッドドアミラーも連動して作動します。
- 連続作動は15分間作動し、2分間停止し、再度15分間作動を繰り返します。バッテリー電圧が弱くなると連続作動をやめ、15分間作動で停止します。

ハザードランプ（非常点滅灯）スイッチ

ハザードランプは、エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。

やむを得ず路上に駐車するとき、高速道路で渋滞の最後尾に近づいたとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。スイッチを押すと方向指示器が点滅します。



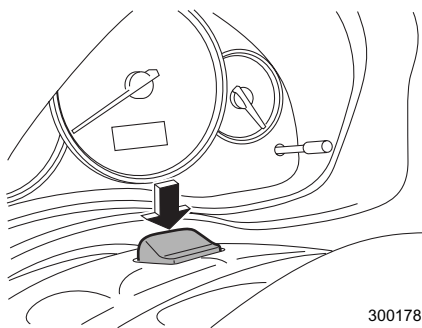
300844

アドバイス

- 非常のとき以外は使わないでください。
- 長時間、点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

パーキングランプ（駐車灯）スイッチ

夜間、路上に一時駐車するとき使用します。エンジンスイッチに関係なく、コラムカバー上面のスイッチを押すと前後の駐車灯が点灯します。



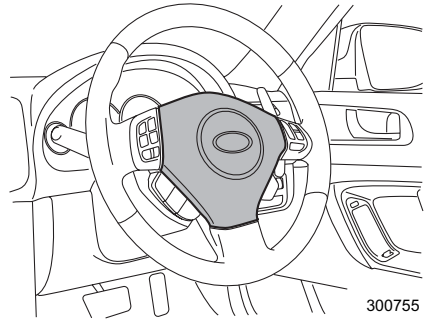
300178

アドバイス

長時間点灯したままにすると、バッテリー上がりの原因になります。短時間の駐車にご利用ください。

ホーンスイッチ

ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。



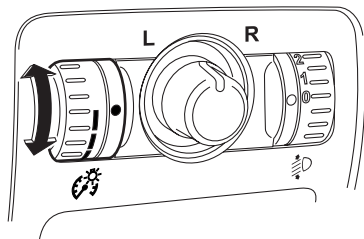
アドバイス

エンジンスイッチの位置に関係なくホーンを鳴らすことができます。

イルミネーションコントロールダイヤル

ライティングスイッチが あるいは の位置のとき、コントロールダイヤルを回すとコンビネーションメーター、エアコン、オーディオ、時計、マルチインフォメーションディスプレイの明るさを6段階に調整することができます。

- 上方向に回すと明るくなります。
- 下方向に回すと暗くなります。



アドバイス

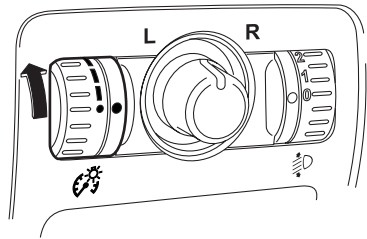
エレクトロルミネセントメーター装備車はライティングスイッチを OFF の状態で6段階、スイッチが あるいは の状態で6段階の明るさの調整することができます。

ブライト（減光キャンセル）機能

ライティングスイッチを D または D にすると表示部の明るさが一段減光し、暗くなります。昼間、ランプを点灯させて走るときで表示が見にくい場合は、減光をキャンセルし、明るくすることができます。

イルミネーションコントロールダイヤル装備車

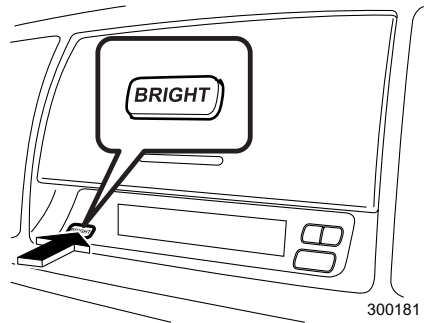
ダイヤルを一番明るい段階からさらに一段階（●印部分）、上方向に回すと減光がキャンセルされ、明るくなります。



300588

イルミネーションコントロールダイヤルなし車

時計部分にある「BRIGHT」ボタンを押すと減光がキャンセルされ、明るくなります。



300181

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

■メーターの初期作動

メーターは、エンジンスイッチをONにするとメーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。(スweep機能)

タイプBメーターは、マルチインフォメーションディスプレイの各種設定で「誕生日」および「記念日」を設定していると、ディスプレイにメッセージが表示されます。

☆3-29ページ参照

アドバイス

- すばやくキーを回してエンジンを始動すると、メーターのスweep機能が作動しない場合がありますが、故障ではありません。
- メーターの初期作動は作動あり / 作動なしの設定ができます。メーターの初期作動の設定方法は、メーターのタイプによって異なります。

タイプAメーター：

☆3-24ページ参照

タイプBメーター：

☆3-28ページ参照

■スピードメーター

車の走行速度を示します。

アドバイス

速度警告装置はついていません。
スピードを出し過ぎないようにしてください。

■タコメーター (エンジン回転計)

毎分のエンジン回転数を示します。

注意

指針がレッドゾーン (エンジンの許容回転数を超えている範囲) に入らないように運転してください。
指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

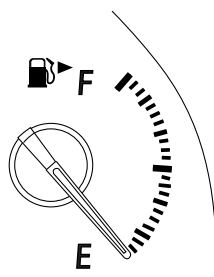
🏠 アドバイス

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■ フューエルメーター（燃料計）

燃料の残量を示します。指針が「E」に近づいたら早めに給油をしてください。

☆2-56ページ参照



300777

⚠️ 注意

燃料給油は、必ずエンジンを止めて行ってください。

☆1-29ページ参照

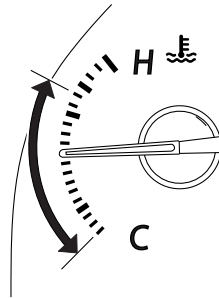
🏠 アドバイス

- エンジンスイッチがONのときのみ、燃料の残量を示します。
- 給油後の残量はエンジンを始動すると示します。また、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- 指針と消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、指針が振れることがあります。
- エンジンスイッチがONのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示されません。
- 給油量が少ない場合（約15ℓ以下）、指針が安定するまでしばらく時間がかかります。
- エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと一定時間燃料の残量を表示します。

■水温計

エンジンスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。

冷却水が暖まると指針はオーバーヒートゾーンより下（ゲージのほぼ中央）を示します。



300765

⚠ 注意

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。直ちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。

☆7-30ページ参照

🏠 アドバイス

エンジンスイッチがON以外のときは、指針は冷却水の温度に関係なく「C」を示します。

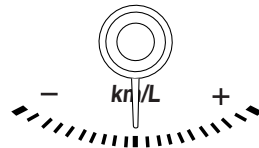
「H」：高温（HOT）

「C」：低温（COLD）

を示しています。

■ECOゲージ

トリップメーターをリセットしてからの平均燃費と瞬間燃費の差を表示します。平均燃費よりも瞬間燃費が高い場合は+側、低い場合は-側を表示します。



300905

🏠 アドバイス

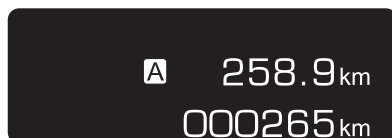
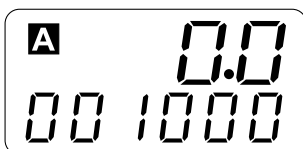
- ECOゲージはあくまでも目安です。
- 平均燃費は、トリップメーターリセット後、1 km 走行すると表示されます。表示されるまでの間、ECOゲージは作動しません。

■ オドメーター（積算距離計）

メーター下段に走行した総距離をkmで表示します。

タイプAメーター

タイプBメーター



300088

300785

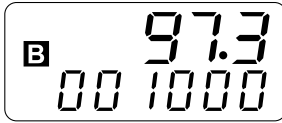
🏠 アドバイス

エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。

■トリップメーター（区間距離計）

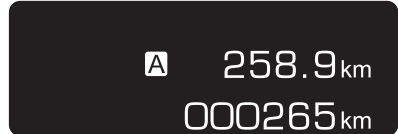
メーター上段に表示され、ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。表示範囲は0.0 km～9999 kmです。

タイプAメーター



300258

タイプBメーター



300786

アドバイス

エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。

●トリップ[A]、[B]切り替え

トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すことに、次のように表示が切り替わります。

トリップメーター[A] → トリップメーター[B]



●トリップメーター[A]・[B]を0に戻すとき

トリップ[A]またはトリップ[B]のうち、リセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し続けると0に戻ります。

●ボディ電装システムの表示について（タイプAメーター）

ボディ電装機能の異常を検出するとトリップメーターに異常状態を「Er ○○」と表示します。

アドバイス

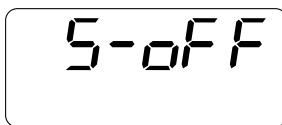
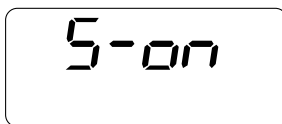
表示が出た場合は、直ちに最寄りのスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

■メーターの初期設定（タイプAメーター）

●指針の初期作動（スイープ機能）の設定のしかた

指針の初期作動は次の操作により作動あり/作動なしの設定ができます。


- ① エンジンスイッチをAccの位置にしてください。
- ② トリップ切り替え/トリップリセットノブを3回押してください。
- ③ トリップ表示の次に現在の設定が表示されます。
- ④ このときトリップ切り替え/トリップリセットノブを1秒以上押すと切り替わります。



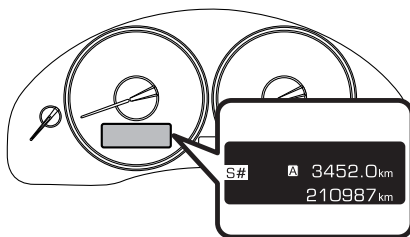
300185

マルチインフォメーションディスプレイ

■マルチインフォメーションディスプレイ

オド・トリップ表示や各種表示を行います。
異常を検知すると、警告表示が割り込み表示され、一定時間後に通常表示に戻ります。この時左下に  マークが点灯し続けます。

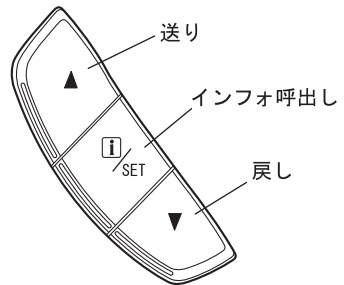
☆3-34ページ参照



300799

■操作スイッチ

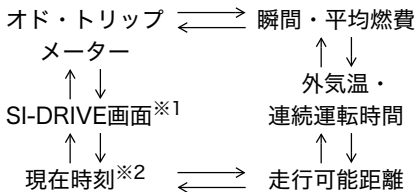
「▲」と「▼」は表示を送るまたは戻すときに使用します。[i]/SET は警告が表示された場合の警告画面を再表示するときや、各種設定画面での項目決定のときに使用します。



300800

■通常表示画面

操作スイッチの「▲」と「▼」を操作することによって表示を切り替えることができます。



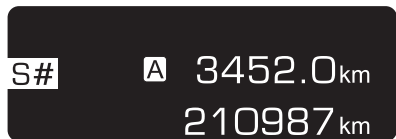
※1 SI-DRIVE画面はSI-DRIVE装着車のみ表示します。

※2 現在時刻はメーカーオプションのナビゲーション装着車のみ表示します。

●オド・トリップメーター

走行した総距離（オドメーター）、区間距離（トリップメーター）の表示をkmで表示します。トリップA、Bの切り替えはトリップ切り替えノブで行います。

☆3-23ページ参照




300802

●瞬間・平均燃費

瞬間燃費：走行している瞬間の燃費を表示します。低速走行時は、表示されません。

平均燃費：トリップメーターをリセットしてからの平均燃費を表示します。トリップノブを押すごとに、トリップA、Bの平均燃費を表示します。トリップA、Bをリセットすると平均燃費計もリセットされます。リセット後は1 km走行するまで表示されません。



S# 瞬間 9.0 km/L
平均A 10.0 km/L

300803

🏠 アドバイス

走行状態や状況により燃費は変化するため、燃費情報は目安となります。そのため、表示が実際とは異なる場合があります。

●外気温・連続運転表示

外気温度を表示します。

連続運転時間はエンジン始動時からの時間を表示します。

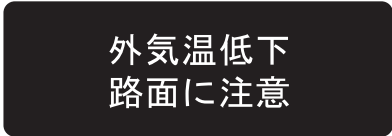


S# OUT TEMP 25.0°C
運転時間 00:00

300804

外気温度が3°C以下になった場合、路面が凍結している可能性があることを知らせるため、警告画面に切り替わります。他の表示をしている場合は割り込み表示し、切り替わり前の表示に戻ります。

エンジンスイッチをONにしたとき、3°C以下の外気温度の場合、警告画面は表示されません。



外気温低下
路面に注意

300805

エンジン始動から2時間経過すると、経過時間画面に切り替わります。

他の表示をしている場合は割り込み表示し、切り替わり前の表示に戻ります。

その後は1時間ごとに経過時間画面が表示されます。

運転開始から
8時間経過

300863

●走行可能距離表示

燃料タンク内の燃料量と過去30 km間の燃費を計算してタンク内の燃料での走行可能距離を10 km単位で表示します。

※残走行距離計算用の燃費値は過去30 km間の燃費を基に行っているため、瞬間燃費、平均燃費の値とは必ずしも一致しません。燃料が残りわずかになりますと、表示をストップします。

☆3-26ページ参照

S# 走行可能距離
およそ 210 km

300806

●現在時刻表示（メーカーオプションのナビゲーション装着車）

現在時刻を表示します。

ただし、各種設定（カスタマイズ）で現在日時を設定していない場合、「--:--」と表示します。

☆3-29ページ参照

S# 現在時刻
00:00

300807



アドバイス

メーカーオプション以外のナビゲーション装着車の場合、現在時刻は表示されません。

●SI-DRIVE表示

走行モードの表示をします。アクセル開度に応じてグラフが変化します。

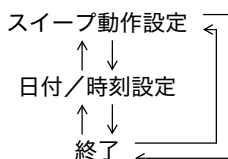


300808



■各種設定（カスタマイズ）

マルチインフォメーションディスプレイに表示される項目や、メーターの初期作動をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ項目は「▲」と「▼」を操作すると以下のように切り替わります。




●指針の初期作動（スイープ機能とイルミネーション機能）の設定のしかた

- ① エンジンスイッチONにしてから10秒以内に「/SET」を2秒以上長押しします。
- ② 「メータ設定」が表示され、設定画面に切り替わります。
- ③ 設定画面が表示されたら「スイープ動作設定」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作します。「スイープ動作設定」を選択し、「/SET」ボタンを押します。



300864

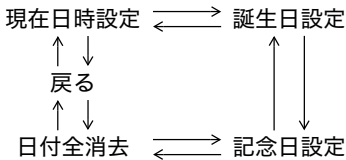
- ④「スワイプ動作設定」画面で設定したい項目を選択し「/SET」ボタンを押します。



300865

●日付/時刻設定のしかた



日付設定では各項目の設定ができ、「▲」と「▼」を操作すると以下のように切り替わります。



アドバイス

- 「誕生日」「記念日」は「現在日時」を設定していないと入力できません。
- 「現在日時」の設定は、「誕生日」「記念日」の表示を行うためのものです。


日付設定準備

- ① エンジンスイッチONにしてから12秒以内に「/SET」を2秒以上長押しします。
- ② 「メータ設定」が表示され、設定画面に切り替わります。
- ③ 設定画面が表示されたら「日付/時刻設定」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作します。「日付/時刻設定」を選択し、「/SET」を押します。




300866

▼現在日時設定

- ①「現在日時」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作し「/SET」を押します。





300867

- ② 設定する項目を「▲」と「▼」で選択し、「/SET」を押します。




300868

- ③ 設定項目で「▲」「▼」で数字を選択し、「/SET」で決定していきます。
- ④ ③の作業を繰り返して日時を入力し、終了したら「登録」を選択し「/SET」を押します。






300869

▼誕生日設定

- ①「誕生日」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作し「/SET」を押します。



300870

- ② 設定する項目を「▲」と「▼」で選択し、「/SET」を押します。
- ③ 設定項目で「▲」「▼」で数字を選択し、「/SET」で決定していきます。
- ④ ③の作業を繰り返して日時を入力し、終了したら「登録」を選択し「/SET」を押します。

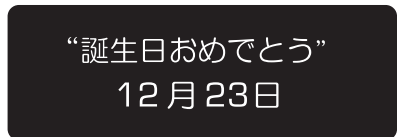


300871

誕生日を設定すると、エンジンスイッチONしたときに誕生日が近づくとメッセージを表示します。

1週間前から前日

当日




300872

300873




運転するとき

▼記念日設定

- ①「記念日」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作し「/SET」を押します。



300874

- ② 設定する項目を「▲」と「▼」で選択し、「/SET」を押します。
③ 設定項目で「▲」「▼」で数字を選択し、「/SET」で決定していきます。
④ ③の作業を繰り返して日時を入力し、終了したら「登録」を選択し「/SET」を押します。

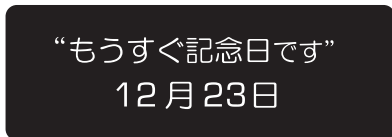


300875

記念日を登録すると、エンジンスイッチONしたときに記念日が近づくとメッセージを表示します。

1週間前から前日


当日



300876


300877

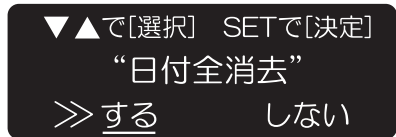
▼日付全消去

- ① 「日付全消去」が表示されるまで「▲」と「▼」を操作し「/SET」を押します。



300878

- ② 「する」「しない」を選択し、「/SET」を押します。



300879



アドバイス

「する」で決定すると、「誕生日」と「記念日」の日付を初期状態に戻すことができます。ただし、現在日時は初期状態には戻りません。

警告画面表示

異常を検知すると、警告画面が割り込み表示をします。

警告画面が表示されたときは表示灯、警告灯の該当ページを参照して必要な処置をおこなってください。

通常表示



300803

警告画面



300810

通常表示



300811

警告画面終了後、通常表示に戻ります。

再表示が可能な警告画面があるときは、**i**マークが表示されます。


■画面表示一覧

車の異常や作動を検知すると表示されるものと作動を検知して表示されるものがあります。

通常画面に切り替わったときに**i**(インフォメーション)と表示されている場合、「**i**/SET」ボタンを押すと内容が再表示されます。

●繰り返し表示する項目

シートベルト、駐車ブレーキ警告は3秒間表示し消灯、20秒後に再表示を繰り返します。
複数の異常を検知した場合、表示は3秒未満で切り替わります。









項目	表示1	表示2	インフォ (I) 呼び出し	処置 (参照先)
駐車ブレーキ警告	 駐車ブレーキ 解除して下さい		無し	☆3-50

●表示後消灯する項目

表示は表示①、表示②ともに3秒間ずつ表示します。
複数の異常を検知した場合、表示は3秒未満で切り替わります。

項目	表示1	表示2	インフォ (I) 呼び出し	処置 (参照先)
半ドア警告	 ドアが 開いています		有り	☆3-42
VDC OFF表示	 VDCシステム OFF	路面に注意して 運転して下さい	無し	☆3-46
SI-DRIVE 切り替え表示	 S# S I		無し	☆3-53 ☆3-68
SI-DRIVE警告	走行モード切替え システム点検	販売店で点検を 受けて下さい	有り	☆3-53 ☆3-68
トランス ミッション警告	トランスミッション システム点検	販売店で点検を 受けて下さい	有り	☆3-44
AWD警告	AWD システム点検	タイヤ空気圧 点検して下さい	有り	☆3-43
AT油温警告	AT 油温上昇		有り	☆3-44
EBDシステム警告	 ブレーキ システム点検	直ちに停車し 販売店へ連絡	有り	☆3-41
ブレーキ液量警告	 ブレーキ 液量低下	直ちに停車し 販売店へ連絡	有り	☆3-41

メーター、表示灯、警告灯の見かた

項目	表示1	表示2	インフォ (i) 呼び出し	処置 (参照先)
ABS警告	 ABS点検	路面に注意して 運転して下さい	有り	☆3-42
オイルプレッシャー 警告	 エンジン 油圧点検	エンジン停止し 販売店へ連絡	有り	☆3-44
エンジン警告	 エンジン システム点検	無理な運転を 避け販売店へ	有り	☆3-45
水温警告	 オーバーヒート		有り	☆7-30
チャージ警告	 充電 システム点検	直ちに停車し 販売店へ連絡	有り	☆3-45
SRSエアバッグ 警告	AIR BAG エアバッグ システム点検	直ちに停車し 販売店へ連絡	有り	☆3-43
VDC警告	 VDCシステム 点検	路面に注意して 運転して下さい	有り	☆3-46
燃料計警告	燃料残量が 表示できません	販売店で点検を 受けて下さい	有り	☆3-45
燃料残量警告	 給油して ください		無し	☆3-45
オートヘッドラン レベライザー 警告	 レベライザー システム点検	販売店で点検を 受けて下さい	有り	☆3-47
アラーム履歴表示 ①	盗難警報 作動	ドアが 開けられました	無し	☆2-48
アラーム履歴表示 ②	盗難警報 作動	トランクが 開けられました	無し	☆2-48
アラーム履歴表示 ③	盗難警報 作動	強い衝撃が ありました	無し	☆2-48
アラーム履歴表示 ④	盗難警報 作動	弱い衝撃が ありました	無し	☆2-48



アドバイス

半ドア警告表示はエンジンスイッチがAccまたはOFFのときは常時表示しません。

表示灯

■方向指示器表示灯

方向指示器の点滅を示します。



アドバイス

方向指示器のバルブ（電球）やヒューズが切れたときあるいはワット数の異なったバルブ（電球）を使うと点滅の早さが異常になります。

すみやかに点検し、異常のあるバルブ（電球）やヒューズを交換してください。

☆6-23ページ参照

■ライティングスイッチ表示灯

ライティングスイッチが☺または☹位置時に点灯します。



■ハイビーム/パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きするとき点灯します。

また、パッシング時も点灯します。



■フロントフォグランプ表示灯☼

フロントフォグランプが点灯しているとき表示灯が点灯します。



アドバイス

フロントフォグランプ（霧灯）は光束が拡散するように設計していますのでヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。

■セキュリティ表示灯

リモコンキーの🔑ボタンを押し、全てのドアとリヤゲート（トランク）を施錠すると盗難警報装置が監視状態に入り、表示灯が点滅します。





注意

リモコン操作の施錠後、キーを使ってドアの解錠操作を行うと車両ホーンが鳴り、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。

☆2-44ページ参照

●イモビライザー装備車

通常は点滅しています。

エンジンスイッチにキーを差し込むと消灯します。



注意

登録されていないキーを使用すると表示灯が点灯します。

☆2-33ページ参照

■Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯

ECO

「ECO」スイッチを押してInfo-ECO（インフォ・エコ）モードを選択したときまたはSI-DRIVEのI（インテリジェントモード）を選択したときに表示灯が点灯します。

☆3-53、3-67、3-68ページ参照



アドバイス

“Info-ECO”表示灯が点灯中は燃費の良い走行状態であることを示しています。

急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、“Info-ECO”表示灯は消灯します。

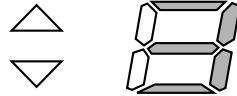
“Info-ECO”表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。

■シフトポジション表示灯（オートマチック車）

スポーツモード、マニュアルモード選択時、ギヤ位置を表示します。

また、マニュアルモード選択時、シフトアップ、シフトダウンへの変速が可能状態であることを示す◀▶印が点灯します。

☆3-64ページ参照

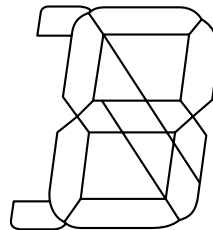


300191

■セレクトインジケータ（オートマチック車）

タイプAメーター

タイプBメーター



300192

301114

セレクトレバーの位置を示します。

☆3-55ページ参照

■SPORT（スポーツ）表示灯🏎️（SI-DRIVE装備車以外）

セレクトレバーをDからマニュアルゲートに移動させるとスポーツモードが選択され“SPORT”表示灯が点灯します。同時にシフトポジション表示灯にギヤ位置が表示されます。

☆3-64ページ参照

SPORT



アドバイス

“SPORT”表示灯はエンジンを始動してから約2秒間点灯します。

■リヤフォグランプ表示灯

リヤフォグランプが点灯しているときに表示灯が点灯します。



アドバイス

リヤフォグランプは使用方法を誤ると、後続車へ迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪く、後続車に自分の位置を知らせる必要があるときにだけ使用してください。

■VDC作動表示灯 (VDC装着車)

VDC作動時は点滅します。このときブザー（ピピピ音）が鳴ります。TCS機能作動時は点灯します。



☆3-82ページ参照

注意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および、エンジンスイッチON後、約2秒たっても消灯しない場合はVDCの電子制御システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

エンジンスイッチONで点灯、約2秒後消灯します。

■クルーズコントロール表示灯

CRUISE

クルーズコントロールのメインスイッチを押すと表示されます。

表示灯が点灯すると、クルーズコントロールシステムの速度設定ができます。

注意

もし走行中にこの表示灯の点滅とエンジン警告灯の点灯が同時に発生したときは、直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

アドバイス

- エンジンスイッチONで点灯、約3秒後消灯します。
- クルーズコントロールレバーに触れながらエンジンを始動させると、この表示灯が点滅します。この場合、一旦エンジンスイッチをOFFにしてレバーに触れずに再度エンジンを始動してください。

■クルーズコントロール車速セット表示灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
クルーズコントロール表示灯が点灯している状態で、任意の速度を設定したときに表示されます。

SET

■S#禁止表示灯

エンジンが冷えているとき点灯します。点灯中はSI-DRIVEのS#に切り替えができません。暖機が進むと消灯します。



■シフトアップ表示灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
SI-DRIVEで（インテリジェントモード）を選択している場合、燃費効率の良い運転ができるように、シフトアップのタイミングを点滅してお知らせします。



警告灯

■ブレーキ警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。（駐車ブレーキレバーを引いていないとき）

エンジン回転中、次の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD) の電子制御システムに異常があるとき

EBDの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3-80ページ参照



運転するとき

注意

- エンジン回転中に駐車ブレーキレバーを戻しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- ブレーキ液が正常で、ABS 警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム (ABS) に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シートベルト警告灯



エンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。運転席シートベルト未着用のまま車速約 22 km/h 以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。約2分経過しても運転席シートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。警告灯は運転席シートベルトを着用するまで点灯します。



アドバイス

このとき車速が約22 km/h以下になっても、上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

☆2-88ページ参照

■半ドア警告灯



エンジンスイッチの位置に関係なくドアが完全に閉じていないときに点灯します。リヤゲートやトランクリッドが完全に閉じていないときも点灯します。



注意

警告灯が点灯したままの状態で行きしないでください。

■ABS警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。アンチロックブレーキシステム（ABS）の電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3-78ページ参照



注意

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

 **アドバイス**

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速12 km/hになったとき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

■ AWD警告灯（オートマチック車）

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

AWD

<p>VDC装着車を除く 4速オートマチック車</p>	<p>スペアタイヤに交換するためAWDを解除し、2WD（二輪駆動）にしたとき点灯します。また、異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。 ☆3-72ページ参照</p>
<p>5速オートマチック車、 VDC装着車</p>	<p>異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。</p>

運転するとき

 **注意**

- AWD 警告灯が点滅したまま走行を続けると駆動装置が損傷する可能性があります。AWD 警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に駐車し、4本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのパンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。
- タイヤに異常がない場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■ SRSエアバッグ警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。

AIR BAG


運転席・助手席エアバッグ、サイドエアバッグ（装着車）、カーテンエアバッグ（装着車）、エアバッグセンサー、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。

 **警告**

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

 **注意**


上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

■ オイルプレッシャー警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後消灯します。

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。

 **注意**

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

 **アドバイス**

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。
オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

■ AT油温警告灯

AT OIL
TEMP

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

オートマチックトランスミッションオイルの温度が高くなると点灯します。

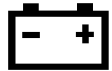


注意

- 走行中に点灯したときは、冷却のため直ちに安全な場所に停車し、セレクタレバーを[P]にしてエンジンをかけたままにしてください。しばらくして消灯すれば走行できます。消灯しないときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- AT 油温警告灯が点滅したときは、オートマチックトランスミッションに異常があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■チャージ警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。



注意

エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

■エンジン警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後消灯します。
エンジン回転中、エンジン電子制御システムの異常があると点灯します。



注意

エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムに異常があります。
高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■燃料残量警告灯

エンジンスイッチがONのとき、燃料残量が約10リットル以下になると点灯します。



注意

点滅したときはフューエルメーター（燃料計）に異常があります。このとき正しい燃料残量は表示されません。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■VDC警告灯/VDC OFF表示灯 (VDC装着車)



- ビークルダイナミクスコントロール (VDC)、TCS 機能が作動停止状態のときは点灯します。VDC OFFスイッチを押してこれらの機能を作動停止状態にしたときも点灯します。
VDC 警告灯はエンジンスイッチを ON にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
- VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3-82ページ参照

注意

警告灯が点灯したままのとき

- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCの付いていない車両と同じように扱ってください。
滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジンを始動してから数分たっても消灯しない場合は異常が考えられますのですみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 警告灯が下記の場合は正常です。
 - － エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
 - － 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。
- 寒い日の朝などにエンジンを始動させた場合、消灯までに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■ オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。



注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ キー無し警告灯 (キーレスアクセス&プッシュスタート装着車)

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。
車内にアクセスキーがない場合に点滅します。



☆2-21ページ参照

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

☆キーレスアクセス&プッシュスタート装着車は、2-13ページをご覧ください。

■エンジンの始動（マニュアル車）

●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ② チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

- ① 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ② クラッチペダルをいっばいに踏みます。
- ③ エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）



アドバイス

<クラッチスタートシステム>

マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいっばいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかからないようになっています。

■エンジンの始動（オートマチック車）

●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ② セレクトレバーがP[Ⓟ]であることを確認します。（N[Ⓝ]でも始動できますが、安全のためP[Ⓟ]で始動してください。）

●エンジンのかけかた

- ① 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ② エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）



警告

車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。

車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

⚠ 注意

- エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒以上スターターを回し続けしないでください。スターターが故障する原因になります。かからないときは一旦、スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回してください。

🏠 アドバイス

- 3.0Rおよび2.5iは、停車時にアクセルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。
- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドリング回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンの始動はアクセルペダルを踏まずにエンジンが始動するまでエンジンスイッチをSTARTに回します。
- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキを再確認後、アクセルペダルをわずかに(1/4程度)踏み込んで、エンジンスイッチをSTARTに回します。エンジンがかからない場合はアクセルペダルをいっぱい踏み込んでエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を離してください。それでもかからないときは、もう一度アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかからなければスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 使用するガソリンや使用状態(水温計の指針が動かない程の距離の走行を繰り返す)によっては、エンジンがかかりにくくなるのがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、ライティングスイッチ、エアコンスイッチ、リヤウインドウデフォグスイッチをOFFにしたほうが、容易に始動します。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合もあります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- 急発進、急加速時など、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ エンジンの停止

アイドリング回転数に落としてからエンジンスイッチを切ります。



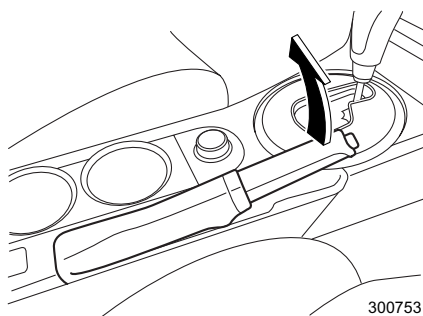
アドバイス

車両が停止した直後は、エンジン回転がアイドリング回転数に戻るまで時間が多少かかることがあります。

駐車ブレーキレバー

■使用するとき

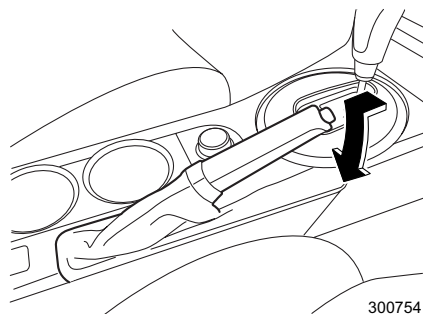
ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」も点灯します。



300753

■戻すとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。



300754



注意

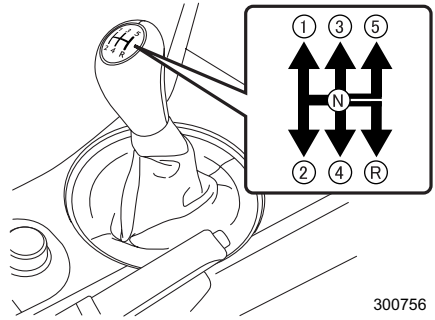
- 駐車するときは車が動き出さないように確実に引いてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。レバーを引いたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

マニュアル車の運転

チェンジレバー

■5速マニュアル車のチェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで確実に操作してください。



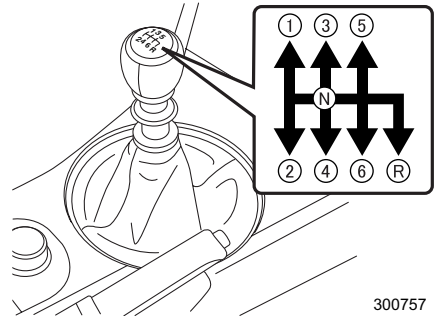
300756

⚠ 注意

5速マニュアル車は誤操作を防ぐため、“5” → “R”へ直接入れることはできません。一度“N”に入れてから“R”に入れてください。

■6速マニュアル車のチェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで確実に操作してください。



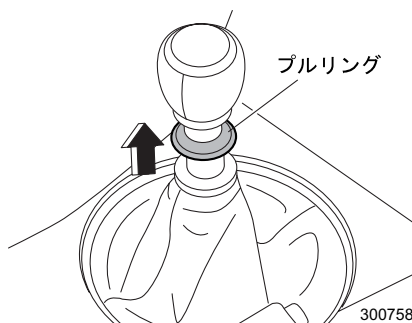
300757

運転するとき

次ページへ ⇒

⇒前ページより

“R”に入れるときはブルリングを引き上げたままレバーを操作してください。
レバーを“N”に戻すと、ブルリングは元の位置に戻ります。



⚠ 注意

- レバーを“N”に戻してもブルリングが元の位置に戻らないときはシステムの異常が考えられます。この場合スバル販売店で点検を受けてください。
- “R”に入れるときは車が完全に止まり、エンジン回転がアイドリング回転まで下がってから入れてください。エンジン回転が高いままだとトランスミッションを損傷させることがあります。
- 半クラッチの連続使用はしないでください。クラッチ早期摩耗の原因になります。

🏠 アドバイス

- 3.0Rは、停車時にアクセルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。
- 変速時、ギヤが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。

SI-DRIVE (SUBARU Intelligent Drive)

SI-DRIVE[※]は、3つの特性をもった走行モードの、I (インテリジェントモード)、S (スポーツモード)、S# (スポーツシャープモード) を選べるシステムです。

I (インテリジェントモード) :

ストレスのない走行性と低燃費を両立させたモードです。市街地走行などの日常の使用に適しています。

S (スポーツモード) :

「I」よりも走行性を向上させ、場所を選ばない走行モードです。高速道路での巡航時や郊外の道を走行するのに適しています。

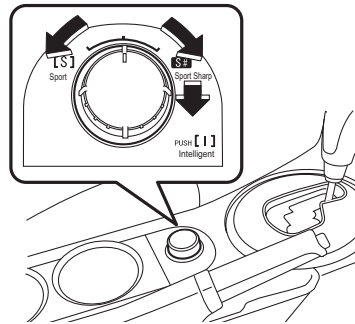
S# (スポーツシャープモード) :

最高の走行性を引き出すモードです。山間部での走行や高速道路の合流、追い越し加速時などに適しています。

※SI-DRIVEは、SUBARU Intelligent Driveに由来します。

●SI-DRIVEセレクター

セレクターを左に回すとS (スポーツモード)、右に回すとS# (スポーツシャープモード)、押すとI (インテリジェントモード) になります。操作後、スイッチは元の位置に戻ります。



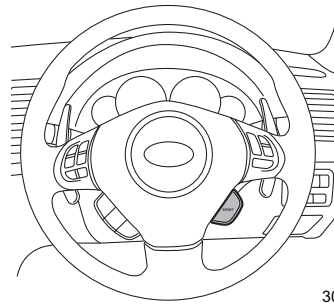
300770

🏠 アドバイス

- エンジン冷間時は、S# 禁止表示灯が点灯します。この場合、S#（スポーツシャープモード）への切り替えができません。
- S#（スポーツシャープモード）にしたままエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、S（スポーツモード）になります。
- S（スポーツモード）または I（インテリジェントモード）でエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、OFFにする前のモードになります。
- エンジン回転中にエンジン警告灯が点灯したときは、どの走行モードに入ってもS（スポーツモード）になります。この場合、S#（スポーツシャープモード）またはI（インテリジェントモード）への切り替えはできません。
- エンジン冷却水の温度が上がりオーバーヒートのおそれがあるときは、S#（スポーツシャープモード）への切り替えができません。S#（スポーツシャープモード）で走行している場合は、S（スポーツモード）になります。3.0Rはエンジンオイルの温度が上がった場合もS（スポーツモード）になります。

● SI-DRIVE S#スイッチ

S（スポーツモード）またはI（インテリジェントモード）のとき、S#（スポーツシャープモード）にすることができるスイッチです。



300766




🏠 アドバイス

S#（スポーツシャープモード）の状態ですwitchを押すと、S#（スポーツシャープモード）にする前のモードになります。

オートマチック車の運転

セレクトレバー

■各位置での働き

 (パーキング)	駐車およびエンジン始動位置	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐車するときは必ず駐車ブレーキをかけて[P]にしてください。
 (リバース)	後退位置	<ul style="list-style-type: none"> ● ブザーが鳴り、ドライバーに[R]であることを知らせます。
 (ニュートラル)	中立位置	
 (ドライブ)	通常走行位置	<ul style="list-style-type: none"> ● 車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて1速⇔2速⇔3速⇔4速を自動的に変速します。(4速オートマチック車) ● 車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて1速⇔2速⇔3速⇔4速⇔5速を自動的に変速します。(5速オートマチック車)

運転するとき

☆1-12ページ参照

警告

発進時は絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作をしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

注意

- **P**でエンジンをかけてください。
Nでもエンジンはかかりますが、安全のため**P**でかけてください。
- **P**、**R**に入れるときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- **P**以外の状態で長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。
- 切り返しのとき、**D**→**R**、**R**→**D**と何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車を完全に止めてから行ってください。
- **R**に入るとブザーが鳴り、**R**であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。
- 後退した後は、すぐに**R**から**N**に戻す習慣をつけてください。

アドバイス

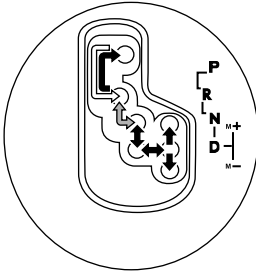
- 3.0Rおよび2.5iは、停車時にアクセルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。
- オートマチック車は低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。(暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。)
- 通常**D**で走行中はよりスムーズな走りを実現するため、下記の制御を行っております。
 - ー Nコントロール (4速オートマチック車の機能です。SI-DRIVE装備車：I選択時、SI-DRIVE装備車以外：Info-Ecoモード選択時)
車が完全に停止した後、セレクトレバーが**D**のままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。「Nコントロール」機能が装備されているため、一時停止などからの再発進時、ブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間(約1秒)がかかります。
 - ー 登坂制御
登坂での不要なアップ・ダウンを防ぎます。
 - ー 降坂制御 (SI-DRIVE装備車：S#選択時、SI-DRIVE装備車以外：スポーツモード選択時)
急な降坂路でブレーキを踏んだとき、エンジンブレーキを効かせるために通常より高い車速でシフトダウンする場合があります。
 - ー ブレーキング制御 (SI-DRIVE 装備車：S# 選択時、SI-DRIVE 装備車以外：スポーツモード選択時)
5、4速走行中、コーナーの入口などでブレーキを強く踏むと自動的に4、3速へシフトダウンする。
 - ー アクセル急戻し制御 (SI-DRIVE 装備車：S# 選択時、SI-DRIVE 装備車以外：スポーツモード選択時)
加速中、コーナー手前などでアクセルを急に戻してもシフトアップしない。

■セレクトレバーの操作方法

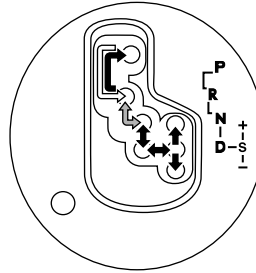
レバーは各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。

SI-DRIVE装備車

SI-DRIVE装備車以外



301115



301116

↓	ブレーキペダルを踏まないとは操作できません。ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
↓	そのままゲートに沿って動かします。ただし、エンジンスイッチをOFFにした場合は、ブレーキペダルを踏まないとは操作できません。ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
↓	そのままゲートに沿って動かします。



注意

セレクトレバー周辺に物を置かないでください。誤操作の原因となります。



アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- **P**のときは、レバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCKまたはAccのときは、ブレーキペダルを踏んでもレバーを**P**から他の位置に切り替えられません。

■シフトロックシステム

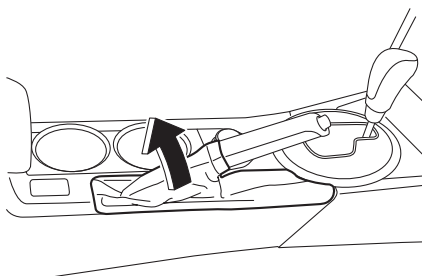
セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- **P**からのレバー操作は、エンジンスイッチをONにしブレーキペダルを踏まないで操作できません。
- セレクトレバーを**P**から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- **P**以外ではエンジンスイッチからキーを抜くことができません。
(**P**以外ではキーをAccからLOCKに回せません)
- **N**でエンジンをOFFにした場合、しばらくするとレバーを**P**に操作することができなくなる場合がありますので直ちにブレーキペダルを踏みながら**P**にしてください。
もし、セレクトレバーが**N**から**P**に操作できないときは、一旦エンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏みながら**P**に操作してください。

●シフトロックの解除

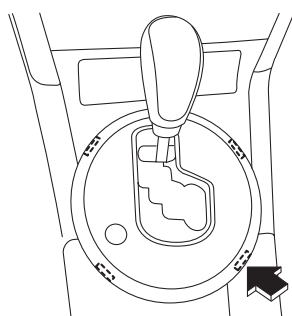
バッテリー上がりやヒューズ切れなどで、セレクトレバーを**P**から動かすことができないときは、次の手順でシフトロックの解除をします。

- ① 駐車ブレーキレバーを引きます。
- ② 駐車ブレーキのカバーを手で外します。



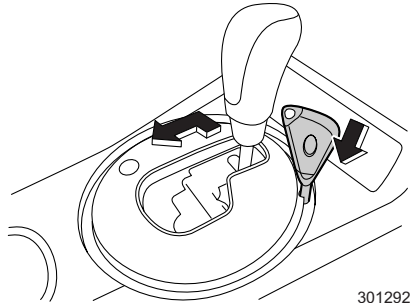
300790

- ③ 図の矢印部分からリングを手で取り外します。



300761

- ④ ブレーキペダルを踏みながら、キーを挿入してシフトロック解除ボタンを押し、セレクトレバーを動かします。



301292

シフトロックの解除操作をしても、セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。最寄りのスバル販売店に連絡してください。

運転手順

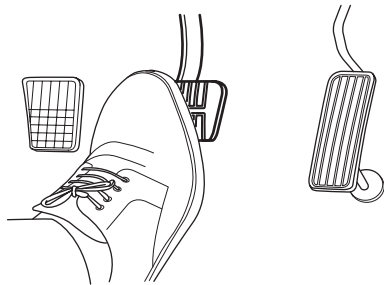
■ エンジンをかける前に

- ① 正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、ハンドルの位置、シートの位置を調整してください。
- ☆2-71、2-125ページ参照
- ② アクセルペダルの位置を右足で確認します。
 - ③ ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

運転するとき

⚠ 注意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。
(踏み間違いは事故につながるおそれがあります。)



300102

■エンジン始動

- ① 駐車ブレーキレバーが確実に引いてあることを確認します。
- ② セレクトレバーが[P]であることを確認します。



注意

[N]でも始動できますが、安全のため[P]で行ってください。

- ③ ブレーキペダルを右足で踏んだまま（アクセルペダルは踏まないこと）
- ④ エンジンスイッチをSTARTに回し、エンジンを始動します。



アドバイス

- エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。
- 3.0Rおよび2.5iは、停車時にアクセルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。

■発進

- ① ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。



警告

確実にブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

- ② セレクトレバーを[D]（前進）または[R]（後退）に入れます。
- ③ セレクトレバーの位置を確認します。
- ④ 駐車ブレーキレバーを戻します。
- ⑤ 右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。



注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドル回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

☆1-12ページ参照

- 後退するときには車の後方に人や障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

アドバイス

急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置を確認し

- ① 駐車ブレーキレバーを引いたままブレーキペダルを離し、アクセルペダルを踏みます。
- ② 車が動き出す感覚を確認しながら、駐車ブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■ 走行

通常の走行：

Dで走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

☆1-12ページ参照

上り坂では：

アクセルペダルを深く踏み込みます。

自動的にシフトダウンし加速します。

また、マニュアルモードに入れ勾配に適したギヤを選択するとなめらかな走行ができます。

下り坂では：

エンジンブレーキを併用してください。マニュアルモードでシフトダウンします。

☆3-64ページ参照

急な下り坂では：

マニュアルモードで2速または1速に入れると、さらに強いエンジンブレーキがかかります。

警告

走行中はセレクトレバーをNにしないでください。エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

シフトダウンによる急激なエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

アドバイス

急発進、急加速など、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ 駐車

- ① 車を完全に止めます。

注意

車が完全に止まらないうちにセレクトレバーを[P]に入れしないでください。トランスミッション損傷の原因となります。

- ② ブレーキペダルを踏んだままの状態、駐車ブレーキレバーを確実に引きます。
- ③ セレクトレバーを[P]に入れます。
セレクトレバーが[P]のときは、車が動き出す心配がなくより安全です。
- ④ エンジンを止めます。

☆1-24ページ参照

注意

車から離れるときは、必ずセレクトレバーを[P]に入れ、エンジンを止めてください。[P]以外でエンジンを止め、車を放置するとバッテリー上がりの原因となります。

■ 停車

- ① [D]のままブレーキペダルを確実に踏みます。

注意

エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリーブ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂で[P]、[N]以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

- ② 必要に応じて駐車ブレーキレバーを引きます。
- ③ 長時間停車するときは[P]にします。
- ④ 停車後、再発進するときは、セレクトレバーが[D]にあることを確認して発進します。

**注意**

- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリーブ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み込み、確実に駐車ブレーキレバーを引いてください。

**アドバイス**

4速オートマチック車には、「Nコントロール」機能が装備されています（SI-DRIVE 装備車：I 選択時、SI-DRIVE 装備車以外：Info-Ecoモード選択時）

車が完全に停止した後、セレクトレバーがDのままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。

再発進時はブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）がかかります。

アクセルペダルを踏むとギヤはつながりますが、急な上り坂での再発進時は、駐車ブレーキを併用することをお奨めします。

運転するとき

スポーツモード

SI-DRIVE 装備車以外の機能です。

登坂時や加速を重視したいときに使用します。

スポーツモードにすると、変速位置がエンジンの高回転側に設定されます。

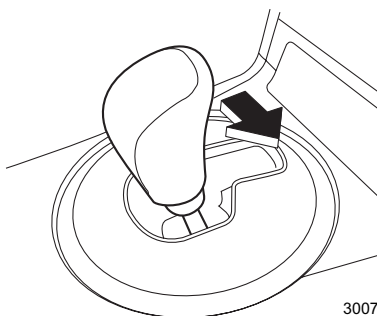
セレクトレバーがDのときレバーをマニュアルゲートに移動させるとスポーツモードになり、メーター内にSPORT表示灯が点灯します。同時にシフトポジション表示灯にギヤ位置が表示されます。

☆3-65ページ参照

次ページへ ⇒

⇒前ページより

レバーを \square または、マニュアルゲートの \oplus 側もしくは \ominus 側に移動する（マニュアルモードにする）と表示灯は消灯します。



300764

スポーツシフト

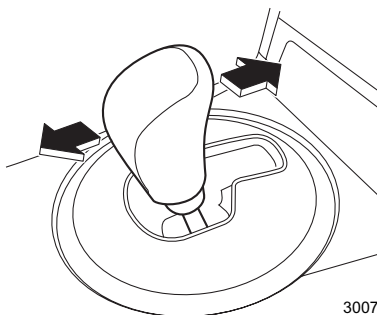
■マニュアルモード

SI-DRIVE装備車

セレクトレバーを \square からマニュアルゲートに動かすとマニュアルモードになります。

SI-DRIVE装備車以外

セレクトレバーを \square からマニュアルゲートに動かし、 \oplus あるいは \ominus 方向に移動させるとマニュアルモードになります。



300767

⚠ 注意

マニュアルモード操作時は以下の注意をよくお読みください。

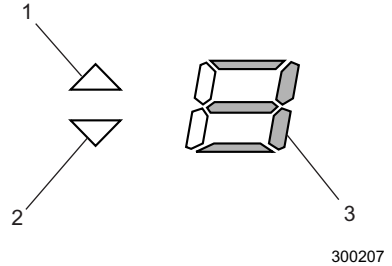
- オートマチックトランスミッションの油温が通常時より高い場合、A/T油温警告灯が点灯します。（3-44ページ参照）
- シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジンの回転がレッドゾーン以上になる場合）でシフトダウン操作をした場合、“ビビ”とブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。
- 低過ぎる車速でシフトアップを行った場合、変速しません。
- 車が停車したとき、自動的にギヤは1速になります。

■シフトポジション表示灯

マニュアルモードが選択されるとギヤ位置を表示します。

シフトアップが可能な場合は数字の横に“▲”、シフトダウンが可能な場合は数字の横に“▼”が表示されます。

シフトアップ、シフトダウン可能表示灯が消灯している状態ではシフトアップ・ダウンはできません。

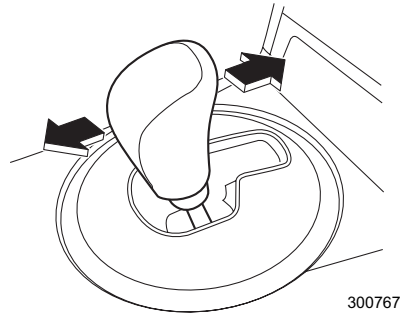


- ① シフトアップ可能表示灯
- ② シフトダウン可能表示灯
- ③ 変速ギヤ表示

■シフト操作

●セレクトレバー

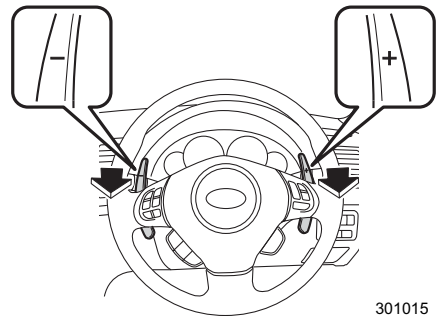
1 段上のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊕方向に押します。1 段下のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊖方向に引きます。




●パドルシフト

右側のレバーが⊕（アップ）になり、左側のレバーが⊖（ダウン）になります。



1 段上のギヤに変速するときは⊕のレバーを手前に引きます。1 段下のギヤに変速するときは⊖のレバーを手前に引きます。



●マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーをマニュアルゲートから  の位置に移動させます。

■Dレンジパドルシフトマニュアル操作機能

走行中、 のままパドルシフトで変速すると自動変速モードから一時的にマニュアルモードに切り替わり、しばらく走行した後、通常の  の走行に自動的に復帰します。（操作時の走行状況により、モード切り替えや復帰時間が異なります。）このとき、シフトポジション表示灯にギヤ位置が表示されます。

注意


パドルシフトのレバーにアクセサリなど物をかけないでください。アクセサリなどをかけるとレバーが不意に動き、シフト操作をするおそれがあります。

■滑りやすい路面での発進（2速発進）

雪道など滑りやすい路面での発進は、マニュアルモードで2速を選択することにより、安全で容易に行えます。

ブレーキを踏んだまま、セレクトレバーを  側に動かしギヤを2速にします。このときシフトポジション表示灯は2速を表示します。

アドバイス

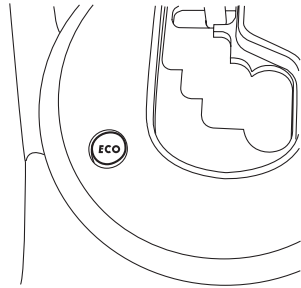
2速発進を選択すると、2速で固定されたままになります。変速したい場合は、セレクトレバーを  に戻すか、マニュアルモードとしてご使用ください。
☆3-64ページ参照

Info-ECOモードスイッチ

SI-DRIVE装備車以外の機能です。

運転条件に応じて走行モード（ノーマルモード、Info-ECO（インフォ・エコ）モード）を選択するスイッチです。

スイッチはセレクトレバーの横にあります。



300769

●ノーマルモード

通常の走行で使用するモードです。

「ECO」スイッチがOFFで「Info-ECO」表示灯は消灯しています。

●Info-ECOモード

エンジンおよびオートマチックトランスミッションの最適な制御によって燃費を向上させるモードです。

「Info-ECO」表示灯が点灯中は燃費の良い走行状態であることを示しています。

急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、一時的にノーマルモードに戻ります。このとき「Info-ECO」表示灯は消灯します。

「Info-ECO」表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。

🏠 アドバイス

- スイッチを押すごとに「ノーマルモード」と「Info-ECOモード」の切り換えを行います。
「Info-ECOモード」選択時は、メーター内の「Info-ECO」表示灯が点灯します。また、走行中「ノーマルモード」に戻る場合は消灯します。

☆3-38ページ参照

- Info-ECOモード選択時に以下を行う場合、「Info-ECO」表示灯が消灯し、Info-ECOモードは解除されます。
 - ー スポーツモードにする
 - ー クルーズコントロールを作動させる
 これらの作動を解除すると、Info-ECOモードが復帰します。

☆3-63、3-73ページ参照

SI-DRIVE (SUBARU Intelligent Drive)

SI-DRIVE [※]は、3つの特性を持った走行モードの、I (インテリジェントモード)、S (スポーツモード)、S# (スポーツシャープモード) を選べるシステムです。

I (インテリジェントモード) :

ストレスのない走行性と低燃費を両立させたモードです。市街地走行などの日常の使用に適しています。

S (スポーツモード) :

「I」よりも走行性を向上させ、場所を選ばない走行モードです。高速道路での巡航時や郊外の道を走行するのに適しています。

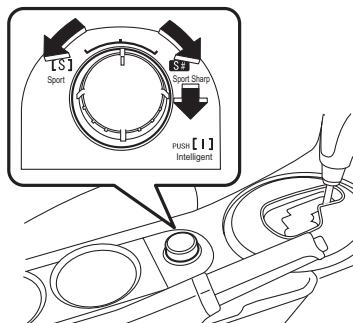
S# (スポーツシャープモード) :

最高の走行性を引き出すモードです。山間部での走行や高速道路の合流、追い越し加速時などに適しています。

※SI-DRIVEは、SUBARU Intelligent Driveに由来します。

●SI-DRIVEセレクター

セレクターを左に回すとS(スポーツモード)、右に回すとS#(スポーツシャープモード)、押すとI(インテリジェントモード)になります。操作後、スイッチは元の位置に戻ります。



300770

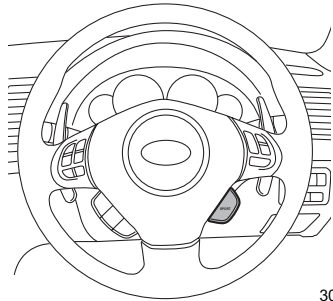
アドバイス

- エンジン冷間時は、S#禁止表示灯が点灯します。この場合、S#(スポーツシャープモード)への切り替えができません。
- S#(スポーツシャープモード)にしたままエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、S(スポーツモード)になります。
- S(スポーツモード)またはI(インテリジェントモード)でエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、OFFにする前のモードになります。

- エンジン回転中にエンジン警告灯が点灯したときは、どの走行モードに入ってもS（スポーツモード）になります。この場合、S#（スポーツシャープモード）またはI（インテリジェントモード）への切り替えはできません。
 - エンジン冷却水の温度が上がりオーバーヒートのおそれがあるときは、S#（スポーツシャープモード）への切り替えができません。S#（スポーツシャープモード）で走行している場合は、S（スポーツモード）になります。3.0Rは、エンジンオイルの温度が上がった場合もS（スポーツモード）になります。
 - I（インテリジェントモード）選択時にクルーズコントロールの走行速度をセットすると、“Info-ECO”表示灯が消灯します。
ただし、この場合の走行モードはI（インテリジェントモード）のままです。セット速度を解除すると、“Info-ECO”表示灯がふたたび点灯します。
- ☆3-73ページ参照

●SI-DRIVE S#スイッチ

S（スポーツモード）またはI（インテリジェントモード）のとき、S#（スポーツシャープモード）にすることができるスイッチです。



300766



アドバイス

S#（スポーツシャープモード）の状態ですwitchを押すと、S#（スポーツシャープモード）にする前のモードになります。

AWD車の運転

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オールホイールドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車で4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤがしずみ込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入って異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WDより安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では十分にスピードを落とし、安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

警告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。
- 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。

- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

☆7-20ページ参照

ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD

マニュアル車の機構です。

ビスカスカップリング付センターデフ機構を採用しています。前後輪に回転差が生じたとき路面状況に合った駆動力が前後輪に配分され、雪道、ぬかるみ、滑りやすい路面で安定した走行性能を発揮します。

運転するとき

VTD-AWD

5速オートマチック車およびVDC装着の4速オートマチック車の機構です。

VTD-AWD システム（不等&可変トルク配分電子制御 AWD）を採用しています。走行状態、路面状況に応じて前後輪の駆動力配分を電子制御し、あらゆる路面で安定した走行性能を発揮します。

アクティブトルクスプリットAWD

VDC装着車を除く4速オートマチック車の機構です。

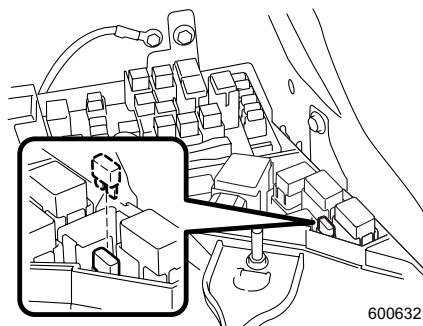
アクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

■全輪駆動の強制解除（VDC装着車を除く4速オートマチック車）

応急用スペアタイヤを装着するときは、全輪駆動を解除します。

- ① エンジンルーム内のFWDヒューズホルダーにヒューズカバー裏のスペアヒューズ（どれでも可能）を差しこみます。
- ② 全輪駆動が解除され前二輪駆動になったときは、メーター内のAWD警告灯が点灯します。
- ③ タイヤの修理あるいは交換後、すみやかにFWDヒューズホルダーからスペアヒューズを抜いて全輪駆動状態に戻してください。
- ④ 抜いたスペアヒューズは、ヒューズカバー裏に戻します。

☆7-8ページ参照



⚠ 注意

FWDヒューズホルダーからスペアヒューズを抜かずにそのまま走行を続けると、駆動装置が損傷する原因となります。

クルーズコントロール


クルーズコントロール（自動定速走行装置）は、アクセルペダルを踏まなくても約 40 ～ 100 km/hの任意の速度で車速を一定に保つことができる機能です。

警告

次のような道路では危険ですので使用しないでください。

- 交通量が多く、車間距離が充分に取れない道路
- 急な下り坂や急カーブが多い道路
- 凍結、積雪などで滑りやすい道路

注意

もし走行中にクルーズコントロール表示灯“CRUISE”の点滅とエンジン警告灯“”の点灯が同時に発生したときは、直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

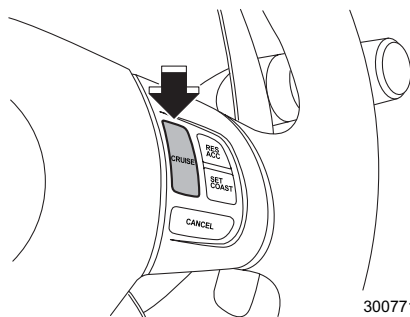
アドバイス

- 上り坂や下り坂では勾配、積載量により、一定車速を保てない場合があります。
- クルーズコントロールスイッチを押しながらエンジンを始動させると、クルーズコントロール表示灯“CRUISE”が点滅します。この場合、一旦エンジンスイッチを OFF にしてスイッチに触れずに再度エンジンを始動させてください。

■CRUISEスイッチ

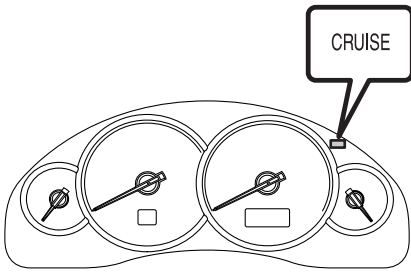
- ① CRUISE スイッチを押すとクルーズコントロールが作動可能になります。クルーズコントロール表示灯も点灯します。

☆3-40ページ参照



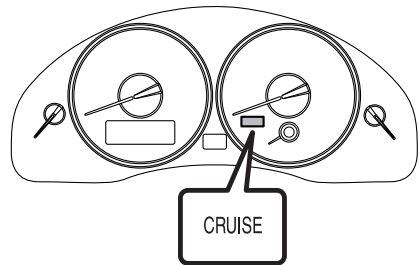
300771

タイプAメーター



301059

タイプBメーター

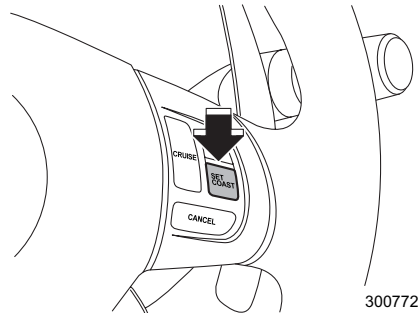


300789

- ② スイッチをもう一度押すと作動停止します。エンジンを止めたときも自動的に作動停止し、表示灯は消灯します。

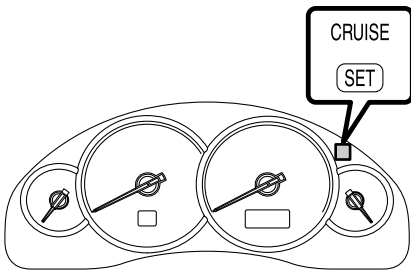
■速度をセットするとき

- ① CRUISE スイッチを押して作動可能にします。
- ② アクセルペダルを加減して希望する速度にします。
- ③ 希望する速度になったとき SET/COAST スイッチを押すと速度が設定されます。メーター内にクルーズコントロール車速セット表示灯が設定されたことを示します。



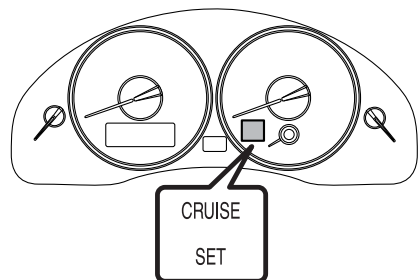
300772

タイプAメーター



301061

タイプBメーター

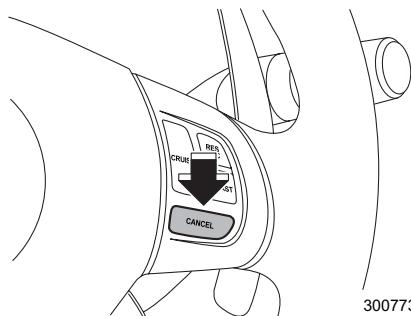


300792

■一時解除

次の場合は速度セットが一時的に解除されます。メーター内のクルーズコントロール車速セット表示灯も消えます。

- ブレーキペダルを踏んだとき。
- CANCELスイッチを押したとき。



300773

■一時解除の復帰

RES/ACCスイッチを押します。解除前の設定した速度まで復帰します。



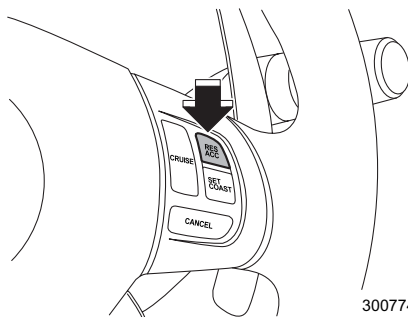
アドバイス

- 復帰できるのは速度が32 km/h以上のときのみです。
- スイッチを押し続けても最初に設定した速度以上にはなりません。設定した速度を変えたい場合は、復帰操作が終了した後にセットし直してください。
- 速度が32 km/h以下になったときは速度メモリーが消去され、復帰操作はできません。
- 一時解除後、速度が32 km/h以下になった場合は再度セットし直してください。

■セット速度を高めるとき

次の二つの方法があります。

- RES/ACC スイッチを押し続け、希望速度になったら離す。



- アクセルペダルで加速し、希望速度になったら SET/COAST スイッチを押して、速度をセットし直す。



アドバイス

セット速度を少し上げたいときは、RES/ACCスイッチを軽く押すと1 km/h上げることができます。

■一時的に加速したいとき

追越しなどで加速したいときはアクセルペダルを踏み込んでください。

アクセルペダルから足を離すと設定した速度まで自動的に戻り、定速走行を続けます。



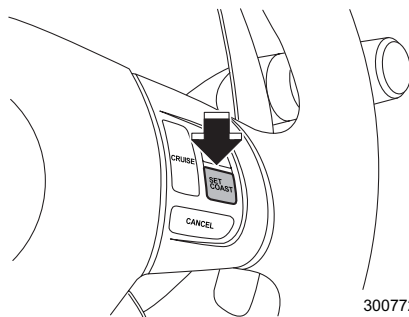
アドバイス

操作スイッチでの急加速はできません。

■セット速度を下げるとき

次の二つの方法があります。

- SET/COASTスイッチを押し続け、希望速度になったら離す。



300772

- ブレーキペダルで減速し、希望速度になったらSET/COASTスイッチを押して、速度を設定し直す。



アドバイス

セット速度を少し下げたいときは、SET/COASTスイッチを軽く押すと1 km/h下げることができます。

■一時的に減速したいとき

減速するときはブレーキペダルを踏んでください。設定した速度に戻すときは復帰操作をしてください。

☆3-75ページ参照



アドバイス

- 操作スイッチでの急減速はできません。
- 下り坂ではエンジンブレーキと併用してください。

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。

ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。

ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。

注意

- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABSを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- 下記の路面などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなる場合があります。
 - － マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
 - － 道路のつなぎ目などの段差
 - － 凹凸路、石畳などの悪路
 - － 下り坂での旋回
 - － 路肩に草や砂利が多い道路
 - － 砂利道
 - － 雪路（新雪路、圧雪路、凍結路など）
- タイヤチェーン装着時にはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなる場合があります。
とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

アドバイス

ABSが作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

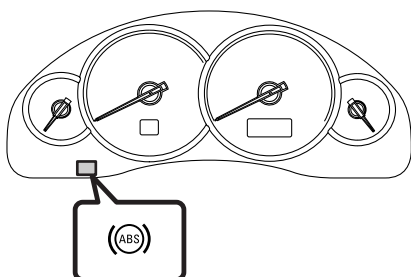
■振動や音について

- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
これはABSが作動している状態を表しており異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
 - － エンジルーム付近から一時的に作動音がある。
 - － ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

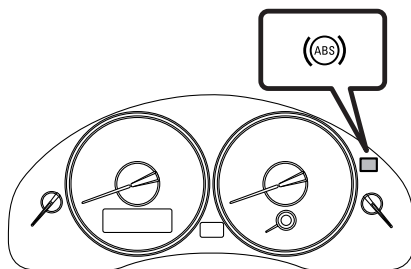
エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

タイプAメーター



301063

タイプBメーター



300787

⚠ 注意

警告灯が下記の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しない。
- 点灯したままのとき

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。
(ABSとしては作動しません)

アドバイス

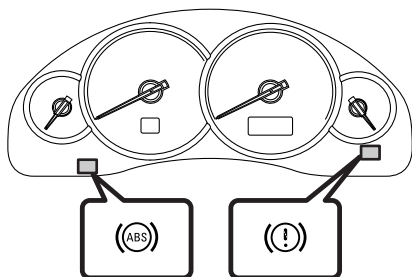
警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

●エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD)

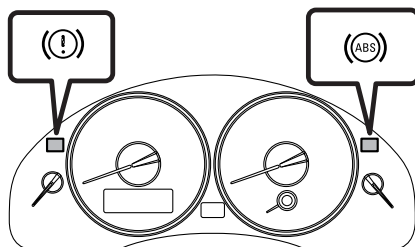
ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する機能です。

タイプAメーター



301065

タイプBメーター



300788

注意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。

点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

EBDシステムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

アドバイス

- EBD が作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS 作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキレバーが完全に戻っていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3-41ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

アドバイス

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。
エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

ブレーキアシスト

ブレーキを強く踏めないドライバーの操作を補助する装置です。
ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、緊急制動と判断し、より大きな制動力を発生させます。

注意

ブレーキ・アシストは本来持っているブレーキ性能を超えた制動力を発生させる装置ではありません。

アドバイス

ブレーキペダルを踏み込んだとき、次のような現象が起こりますが、これはブレーキ・アシスト機構が正常に機能しているときの現象で、異常ではありません。

- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、ブレーキペダルが軽くなりブレーキが強くなるようになります。
- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、コクッと音が聞こえることがあります。

ビークルダイナミクスコントロールシステム

走行中、滑りやすい路面や障害物の緊急回避などのときには、車両が横滑りや尻振りを起こすことがあります。

VDC システムは、横滑りや尻振りや車輪の空転を起こそうになると ABS 機能、トラクションコントロール (TCS) 機能および横滑りコントロール機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制して走行時の方向安定性を確保する装置です。

■トラクションコントロール (TCS) 機能

トラクションコントロール (TCS) 機能は、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。

この機能が作動すると、VDC 作動表示灯が点灯します。

☆3-84ページ参照

●電子制御リミテッドスリップディファレンシャル (LSD) 機能

トラクションコントロール (TCS) 機能の中には、リミテッドスリップディファレンシャル (LSD) 機能も含まれます。この機能は、一般的な LSD の機能と同様に、左右輪の片輪がスリップ (空転) しそうになると、もう片方の車輪にも駆動力を伝え滑りやすい路面上でも駆動力を確保する機能です。

■横滑りコントロール (VDC) 機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する装置です。

この機能が作動すると、VDC 作動表示灯の点滅と同時にブザー (ピピピ音) が鳴ります。

☆3-84ページ参照



注意

- VDC を過信しないでください。VDC が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。
常に安全運転を心がけてください。
- VDC が作動するような路面では車速を十分に落として運転してください。
- サスペンション構成部品、ハンドル構成部品、アクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

次の事項は必ず守ってください

- 雪道走行するときは、冬用タイヤ (スタッドレスタイヤ) またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
- タイヤチェーンを装備するときは、5-2ページの記載事項をお守りください。

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときは、下記項目をお守りください。
 - － 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- VDC 装着車であってもカーブなどの手前では、十分に速度を落としてください。
- VDC が正常に機能しなくなることがありますので、下記事項をお守りください。
 - － 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。

☆8-6ページ参照



アドバイス

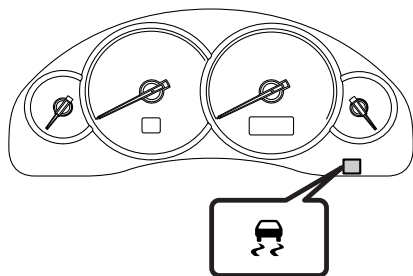
- VDCが作動したとき、ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じる場合があります。これは、VDCが作動している状態で、正常です。
- エンジンをかけた後の最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的な作動音がします。これは、VDCの作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンをかけた後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによっては、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる場合があります。これは、VDCの作動をチェックしている動きで、正常です。
- VDCが作動しているときはハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。
- 応急用スペアタイヤを使用する場合、必ず車両に搭載されているものを使用してください。
他のタイヤやホイールと組み合わせたもの、また、指定空気圧になっていない場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。
- タイヤ交換の際は必ずエンジンスイッチをOFFにしてください。
エンジンをかけたままタイヤ交換を行った場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

☆6-17、7-10ページ参照

■VDC作動表示灯

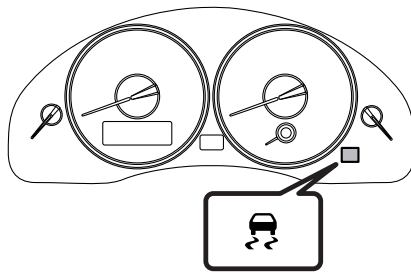
VDC機能作動時は点滅します。このときブザー音（ピピピ音）が鳴ります。TCS機能作動時は点灯します。

タイプAメーター



301067

タイプBメーター



300793



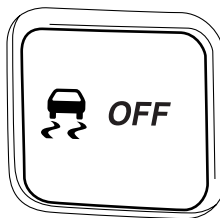
アドバイス

エンジンスイッチがONで点灯、約2秒後消灯するのが正常です。

■VDC OFFスイッチ

下記のような特殊な状況下において TCS 機能、VDC機能を一時的に解除して駆動輪を適度にスリップさせた方が、走破性が向上するという場合に使用します。

- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき。
- ぬかるみ、深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき。



300218

スイッチは、運転席口アカバー左側（オーディオシステムの右横）にあります。

- エンジン回転状態のとき、VDC OFF スイッチを押すと、VDC 警告灯/VDC OFF 表示灯が点灯し、VDC機能、TCS機能が作動停止状態になり、VDC機能、TCS機能が装備されていない車両と同じ走行性能になります。ただし、作動停止状態でも電子制御LSD機能は残ります。
- 作動可能状態に復帰させるときには、もう一度VDC OFFスイッチを押します。

注意

VDC機能、TCS機能を解除したままにすると駆動力を向上する機能、車両安定性を高める機能は働きません。

そのため、必要なとき以外は、VDC機能、TCS機能を作動停止状態にしないでください。

アドバイス

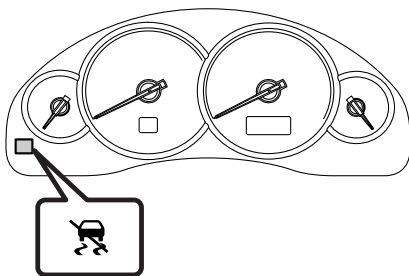
- VDC OFFスイッチを10秒以上押し続けるとメーター内のVDC警告灯/VDC OFF表示灯が消灯し、以後の操作を受け付けなくなりますが、これは正常です。
この場合は、一度エンジンスイッチを切り、再度エンジンを始動すれば元に戻ります。
- エンジンを始動すればVDC機能、TCS機能は自動的に作動可能状態になります。

■VDC警告灯/VDC OFF表示灯

VDC警告灯/VDC OFF表示灯は、以下の場合に点灯します。

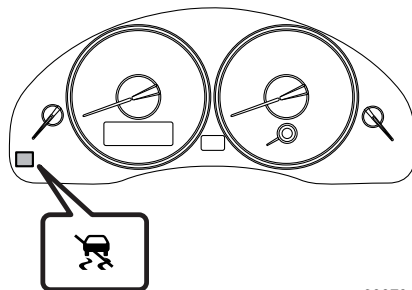
- VDCの電子制御システムに異常があるとき。
- VDC機能、TCS機能が作動停止状態のとき。
- VDC OFFスイッチを押してVDC機能、TCS機能を作動停止状態にしたとき。

タイプAメーター




301069


タイプBメーター



300794


注意

- 下記の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
 - － エンジンスイッチONで点灯しないとき
 - － 点灯したままのとき
 ただし、エンジンスイッチを一気にSTART（エンジン始動）にした場合、警告灯が点灯し続けることがあります。再度エンジンスイッチをOFFまで戻し、ONで約1秒止めてからSTART（エンジン始動）にして、消灯する場合は、異常ではありません。
 上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCのついていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯がエンジン始動してから数分たっても点灯し続ける場合は、異常が考えられますのですみやかにスバル販売店で点検を受けてください。


アドバイス

- エンジンスイッチがONで点灯、エンジン始動後消灯するのが正常です。また、次の場合も正常です。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後ふたたび点灯しない。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
 - － 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しないとき。
- ☆3-46ページ参照
- 寒い朝などにエンジンを始動させた場合、消灯するまでに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

リヤビューカメラ

リヤビューカメラはエンジンスイッチがONのとき、セレクトレバーを[R]にすると自動的に車両後方の映像をモニターに映し出す装置です。

警告

- リヤビューカメラの映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。
- モニターに映し出される映像の範囲には限界がありますので、直接目視やミラーで後方および周囲の安全を確認し、ゆっくりとした速度で後退してください。モニターのみで確認し後退すると、車をぶついたり思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- カメラ、スイッチ、配線類を分解したり改造しないでください。万一煙が出たり変なにおいがした場合には、スバル販売店で点検を受けてください。そのままご使用になると、事故、火災、感電の原因となります。

注意

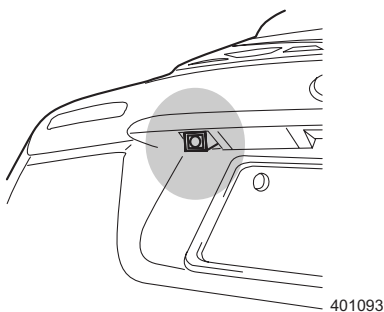
- 高圧洗車機を使用して洗車する場合には、カメラ周辺部に直接水をかけないでください。レンズに水が入り、結露などが発生したり、故障や火災、感電の原因となります。
- カメラは精密機器のため、強い衝撃は与えないでください。故障や、火災、感電の原因となります。
- カメラに泥や雪などが付着して泥が固まったり、凍り付いてしまっているときに、棒などでたたいて泥や、氷を落とすと、破損して火災、感電の原因となります。水またはぬるま湯をかけて洗い流し、柔らかい布で拭きとってください。
- カメラや配線類に火気を近づけないでください。破損や発火の原因となります。
- ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のヒューズを使用してください。規定容量以外のヒューズを使用すると故障の原因となります。
- エンジン停止中に長時間使用するとバッテリー上がりの原因となります。

アドバイス

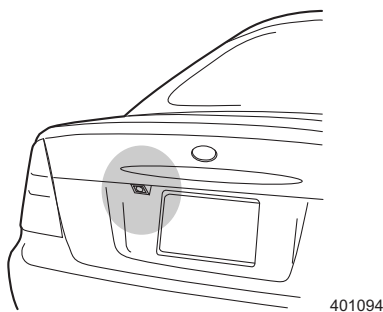
- アルコール、ベンジン、シンナーなどでカメラを拭かないでください。変色などの原因となります。汚れを落とすときには、うすめた中性洗剤を染み込ませた布で拭き、柔らかい布でから拭きをしてください。
- ボディワックスをかける場合は、ワックスがカメラにつかないよう注意してください。もし、ついてしまった場合にはきれいな布に水でうすめた中性洗剤を含ませワックスを落としてください。
- レンズカバーは傷がつきにくいよう、ハードコートしておりますが、ボディ洗車する場合やレンズカバーを拭き取る場合に、傷をつけないように注意してください。
レンズカバーに洗車ブラシなどは使用しないでください。リヤビューカメラの映像が見つらなくなることがあります。
- レンズに強い光が入ると、光源を中心に白い光の縦線が入る場合がありますが、故障ではありません。
- 蛍光灯などの照明の下で、画面にちらつきが出ることがありますが、故障ではありません。
- リヤビューカメラの映像は実際の色味とは多少異なることがあります。

■リヤビューカメラの位置

<ワゴン>



<セダン>



■リヤビューカメラの使用方法

●リヤビューカメラの映像を見るには

リヤビューカメラは、セレクトレバーを[R]にすると自動的に車両後方の映像を表示します。

[R]以外にすると、切り替わる前の画面表示になります。

- ①車両のエンジンスイッチをONにする。
- ②セレクトレバーを[R]に入れる。

🏠 アドバイス

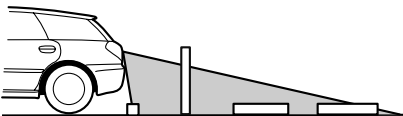
- リヤビューカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して映し出されます。(ただし、ナビゲーションシステムが起動中は映像は映し出されません。)
- リヤビューカメラの映像は、車両のバックミラーやサイドミラーで見ると同じように、左右が反転して映し出されます。
- 次のような場合には、リヤビューカメラの映像が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
 - －暗いところ（夜間、トンネルなど）。
 - －カメラ付近が極端に熱いとき、または寒いとき。
 - －カメラのレンズカバーが汚れているとき。
 - －直接カメラに強い光が入るとき。(映像に白い縦線など影響が出る事があります)。
 - －レンズカバーに水滴がついたとき、または湿度が高いとき。(雨天時など)

■画面に映る範囲

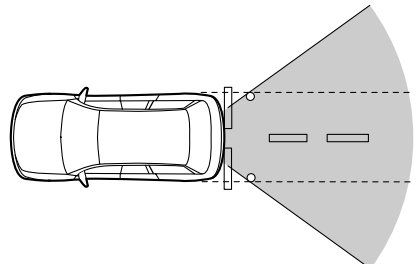
●画面に映る範囲

- バンパー後端から車の後方が映ります。ただしバンパー両端付近やバンパーの下にあるものは、映りません。
- カメラより上の部分は映し出されません。障害物の上部に突起などがある場合、画面上では確認できません。
- リヤビューカメラの映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。

映し出される範囲

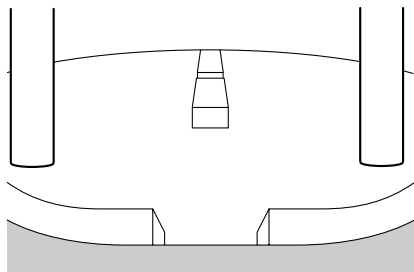


401095



401096

カメラからの映像



401097

⚠ 注意

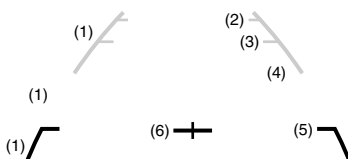
リヤビューカメラの映し出す範囲には限界があります。必ず直接目で確認しながら後退してください。

●距離・車幅マーカー（補助線）

距離・車幅マーカー（補助線）は、実際の距離と画面で見ている感覚を補助するための目安です。

セレクトレバーを **R** に入れるとモニターに後方の映像とともに、距離・車幅マーカーが表示されます。

- (1)車幅線（斜め縦線）
- (2)バンパーから約3m（緑横線）
- (3)バンパーから約2m（緑横線）
- (4)バンパーから約1m（黄横線）
- (5)バンパーから約0.5m（赤横線）
- (6)バンパーから約 0.5m と車両中心を示す十字線（赤線）



車両周辺を直接確認して下さい

401098

⚠ 注意

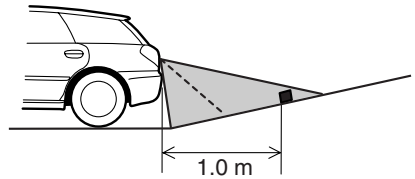
- 後退時は、距離マーカーを頼らず直接目で確認してください。
- 実際の位置と距離マーカーの指示が異なる場合があります。
- 搭乗人数や積載状態によってズレが生じます。
- 坂道や車両が路面に対して傾いている場合には、実際の位置とズレを生じます。

▼画面と実際の路面との誤差

距離マーカは車両に積載がない状態での水平な路面に対しての距離を示しています。
積載状況、路面状態などにより実際の距離と異なる場合があります。

後方に上り坂がある場合

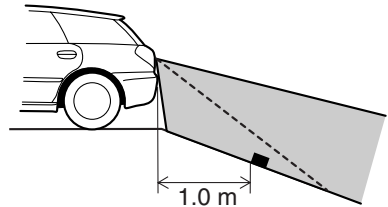
実際の距離より、画面上の距離のほうが遠くにあるように見えます。



401099

後方に下り坂がある場合

実際の距離より、画面上の距離のほうが近くにあるように見えます。



401100



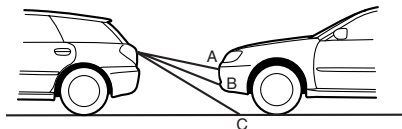
アドバイス

積載時は、後方が上り坂と同じように実際の距離より遠くあるように見えます。

▼距離マーカーの特性

距離マーカーは、路面上の距離を映し出すため、立体的な物体が後方にある場合、正しい距離表示ができません。

- A 3m表示ライン
- B 2m表示ライン
- C 1m表示ライン



401101

■故障かなと思ったら

●リヤビューカメラの映像が映らない。

- セレクトレバーは[R]になっていますか？
- ヒューズが切れていませんか？

●リヤビューカメラの映像の映りが悪い。

- レンズカバーが汚れていませんか？
- 太陽の強い反射光や後続車のヘッドランプの光が直接レンズにあたっていないですか？

サスペンション

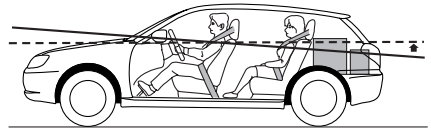
セルフレベリングサスペンション

リヤサスペンションのダンパーにはセルフレベリング（後輪車高調整）機能が組み込まれています。

荷物や乗員を乗せたときに車両後部が下がるのを防ぎ、通常的車高を保つように調整します。

■積載時

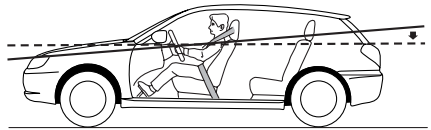
重い荷物や乗員を乗せると車両後部が下がりますが、しばらく走行すると、自動的に車両を通常的車高に調整します。



300219

■積載を降ろしたとき

荷物や乗員を降ろすと通常よりも車高が高くなりますが、しばらく走行すると自動的に通常的車高に戻ります。



300220

⚠ 注意

積載重量を超えて使用しないでください。セルフレベリングサスペンションの故障の原因となります。

🏠 アドバイス

積載状態で長時間放置すると、徐々に車高は低下します。（積載量に応じて低下量は変化します。）

リミテッドスリップディファレンシャル

リヤリミテッドスリップディファレンシャル(LSD)

後輪の片輪がスリップ（空転）しそうになると、もう片方の車輪にも駆動力を伝え滑りやすい路面上でも駆動力を確保します。



注意

ぬかるみなどで、後輪の片方のタイヤが著しく空転しているときは、高回転で空転をさせ続けることは避けてください。LSDが損傷するおそれがあります。

ハンドル

パワーステアリング



アドバイス

- ハンドルを切ると、パワーステアリングポンプの作動音が変化することがありますが、異常ではありません。また、ハンドルをいっぱいに切った状態ではさらに音が大きくなりますが、異常ではありません。
- 極低温時にオイルが低温で硬くなり、エンジンを始動したとき音がしますが異常ではありません。数分で消えます。

MEMO